

令和2年度

# 中英研會報

第79号

東京都中学校英語教育研究会

## 令和2年度 ― 行 動 目 標 ―

グローバル化に対応した教育環境づくりを進めるため、国は小・中・高等学校を通じた英語教育全体の抜本的充実を図ろうとしており、社会全体も大きな期待を寄せている。平成29年3月に告示された学習指導要領においては、小学校第3学年から外国語活動を、第5学年から外国語科を導入することになり、それに伴い、中学校の外国語科も大きな変革が求められることになった。東京都中学校英語教育研究会は、その期待と変革に対応するため、次のような行動目標のもと中学校英語教育のなお一層の充実・発展を目指して活動する。

1. 組織の充実とその活性化を図る。
  - (1) 都中英研の活動がより充実したものとなるよう、組織全体の見直しを継続的に行う。
  - (2) 都中英研の各種事業により多くの教員や学校が参画できるようにし、その活性化を図る。
  - (3) 都中英研の諸活動が一層活発に進められるよう、各地区の幹事と連携を密にする。
2. 人材の発掘とその育成に努める。
  - (1) 有能な人材を発掘し、リーダー層の育成を図るとともに、英語教員全体の資質向上を推進する。
  - (2) 英語教員の資質向上を目指した研修事業を積極的に企画し遂行する。
  - (3) 英語教員の育成と研修の充実を目的に、授業研究を一層活発に推進できるよう支援体制を強化する。
3. 英語教育に関わる関係機関や関係団体との連携を強化する。
  - (1) 第32回オリンピック競技大会（2020／東京）、東京2020パラリンピック競技大会の開催を受け、東京都教育委員会等とも連携しながら、東京方式少人数・習熟度別指導の充実を図り、英語が使える生徒を育てる。
  - (2) 「東京都小学校外国語教育研究会」、「東京都高等学校英語教育研究会」との情報交換を密に行い、小・中・高等学校の学びを円滑に接続できるようにする。
4. 調査・研究の充実を図る。
  - (1) 学習指導要領の趣旨を踏まえながら、組織的な調査・研究を推進する。
  - (2) 英語教育に関わる基礎的事項等についての調査活動を行う。
  - (3) 英語教育に関わる今日的かつ実践的な課題についての研究活動を行う。特に小学校における外国語活動、外国語科との関連に留意した研究を充実する。
  - (4) 生徒の英語によるパフォーマンスを高めるための取組、英語「話すこと」の評価に関する取組についての調査・研究を推進する。
5. 英語教育に関わる各種情報の収集・発信を進める。
  - (1) これまでの広報媒体を活用して、各種情報の発信を行う。
  - (2) HP、SNS等の活用を図り、それを通して各種情報の受信・発信を行う。
  - (3) 各地区との連携を進め、情報の共有化にとどまらず相互協力による事業を推進する。

# 目 次

●「新しい日常」を意識して	刀根 武史	1
●新学習指導要領の確実な実施のための指導と評価の一体化	山田 誠志	2
●コミュニケーション活動を取り入れる前に	内田 浩樹	4
●東京都教育委員会の取組		
生きた英語が身に付き、コミュニケーション能力を伸ばす教育を 推進するために	西貝 裕武	8
①生徒の英語によるパフォーマンスを高めるための 授業力向上セミナーの実施	森田 剛	9
②東京都中学校英語スピーキングテスト事業	大泉 昌明	12
③中学校英語「話すこと」に関する能力育成のための 映像資料・指導資料	堀内 明	14
④英語教材“Tokyo Global Studio”の作成	窪田 香	16
●東京都教職員研修センターにおける外国語（英語）に関する研修について	小野 昌徳	18
●「今、小・中学校の英語教育に求められるもの」	吉村 達之	20
●令和2年度・第73回英語学芸大会の運営にあたって	平岡 栄一	22
実践研究		
(1) 都中英研・研究部公開授業を終えて	水嶋 諒	23
(2) 東京教師道場での取り組みについて	中山 文	25
●各部報告		
・総務部報告	遠藤 哲也	27
・事業部報告	横山 達也	28
・調査部報告	荒川 高広	29
・研究部報告	伊地知義信	30
・プロジェクト・チーム部報告	佐藤 順一	31
・出版部報告	今本由美子	31
●研究大会報告		
・全国英語教育研究団体連合会総会（全英連 東京大会）	難波 浩明	32
●各地区の活動状況		33
●中英研事業報告		59
●中英研会則		61
●役員一覧		63
●あとがき		67

## 「新しい日常」を意識して

会 長 刀 根 武 史  
(東京都中学校英語教育研究会)

新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防ぐために学校現場では日々の健康観察、マスクの着用、消毒作業、三密を避ける工夫など、様々な取組がなされています。

今、「新しい日常」“new normal”が社会に浸透し、学校においてもこの「新しい日常」を意識した教育活動の展開が求められています。国の緊急事態宣言を受けて学校が臨時休業となった際には生徒の家庭学習の支援のため教材を新たに開発したり、オンラインで学習支援動画を配信したりするなど、先生方の中にはこれまでにない対応が求められたこともあったかと思います。また、学校再開直後の授業では、マスク着用のため、先生の口等の形を真似させたり、生徒の口等の形を確認することがしにくくなり、なかなか思うように授業が進められなかったことも多かったのではないかと思います。しかし、このような大変な中でも、多くの先生方がこれまでのご経験を基に、様々な工夫をしながら授業をされていますことに、深く敬意を表したいと思います。

さて、東京都中学校英語教育研究会の本年度の事業ですが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の防止のため「新しい日常」を意識して活動を進めてまいりました。

まず、年度当初の定期総会は文書開催とさせていただき、各議案の承認も各地区の幹事の皆様にその賛否をお届けいただく形で決議しました。また、毎月の役員会も回数を減らし、東京都教職員研修センターの会議室をお借りしての開催といたしました。各部の活動も夏季休業中の研修会は中止とし、9月以降はできる範囲での部会や研修会の開催とさせていただきました。調査部のコミュニケーションテストにつきまして、ほぼ例年通りの実施ができましたが、12月に行っております英語学芸大会は集合型での大会は取りやめ、本年度はSpeakingの部、Playの部に加えてPerformanceの部を新設し、皆様から映像データをお送りいただき、そのデータを審査するという新しい形での実施といたしました。このような大きな変更を求められた中での活動ではありましたが、それでもできる限り充実した活動となるよう役員一同努力を続けてまいりました。

新しい取組で苦勞することも多かったのですが、大変嬉しいこともありました。それは、英語学芸大会に島しょ地域の学校からも2件エントリーがあったことです。今回のようなデータによる参加の英語学芸大会ならば、島しょ地域からも距離を気にせず参加できるということで、今回、「大会への参加の機会が得られてとても嬉しかった」という生徒の声が寄せられました。受け入れ等、事前の準備に苦勞も多有りましたが、やって本当に良かったと思えました。

結びに、この4月から新しい中学校学習指導要領が全面実施となります。評価の観点も3つとなり、言語活動も「話すこと」が「話すこと[やり取り]」と「話すこと[発表]」に分かれ5つの領域となります。新しい観点の評価に向けて、定期テスト等の問題もこれまでとは違った出題の仕方も求められています。ぜひ、『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 中学校 外国語』（国立教育政策研究所教育課程研究センター）などを参考に、今一度お確かめください。

それでは、「新しい日常」を意識しながら、この4月からの新しい英語教育の幕開けに、一緒に臨んでまいりましょう。今後とも東京都中学校英語教育研究会の活動への御理解・御支援をよろしくお願いいたします。

# 新学習指導要領の確実な実施のための指導と評価の一体化

文部科学省初等中等教育局外国語教育推進室 教科調査官 山田 誠志

## 1. 表現の領域における評価と指導

表現の領域（話すこと [やり取り]、話すこと [発表]、書くこと）における各観点  
が評価することは以下の通りである。

知識・技能	英語使用の正確さ
思考・判断・表現	表現内容の適切さ
主体的に学習に取り組む態度	言語活動で表出された態度

※「表現内容の適切さ」における「適切さ」とは、コミュニケーションを行う目的や場面、状況に応じた適切さ。

指導と評価は一体化されていなければならないことを踏まえると、日々の授業でこれら三つの領域を扱う場合の指導のポイントは自ずと明らかになってくる。英語使用の正確さと表現内容の適切さの二つの視点から指導を行うということである。以下、例を示す。

例：新しい ALT が学校に来ることになりました。自分たちの町を好きになってもらうために町の魅力を紹介する文章を書いて ALT に渡そう。（「書くこと」の言語活動）

- ①その ALT の興味等を踏まえ、自分たちの町を好きになってもらうためという目的を達成するために町の何を紹介するとよいか（表現内容）を考えさせる。
- ②①を表現するために、既習の語や文構造、文法事項等を活用して実際に書かせる。
- ③書かせた文章を使って、「表現内容の適切さ」と「英語使用の正確さ」の二つの視点から指導する。
- ④再度書いたり書き直したりさせる。

上記の指導過程で指導する場合、留意点が少なくとも二つある。

一つ目は、①や②を行う前に、表現内容や、それを表現するための英語表現等を示しすぎないということである。

二つ目は、③の指導では、「引き出す」や「気付かせる」ことに留意するということである。「表現内容の適切さ」の指導であれば、“What did you write about?”と問うなどして生徒の表現内容を聞き出す。その上で、どのようなことをどのように伝えると本活動の目的を達成できそうかについて、これまでの単元や他教科、生活体験等から学んだことを引き出す。そして、「なるほど！確かにそのようなことを伝えれば興味をもってもらえるかもしれない。」などと気付かせたい。生徒が気付けない場合は、“I think this is also a good way to introduce our town. It is … What do you think of my idea?”などと言って学ばせることが考えられる。他方、「英語使用の正確さ」の指導であれば、パラフレーズや誤りの修正等を行うことになる。パラフレーズであれば、生徒が表現したい言葉そのものを言い換えさせようとしなくても大切なことである。先日拝見した授業では、「駅ビルの屋上を紹介したい。あの屋上にいると気分がよくなるし、展望台があるので町の様子を一望できる。」と表現したい生徒がいた。生徒は、「展望台は英語で何と言うのですか？」と質問した。皆さんならどのように指導されるだろうか。その授業では、生徒とのやり取りをしながら、要するに何を伝えればよいかを明らかにした。その結果、生徒は既習内容を活用して“I recommend ○○ station building. You can see a very good view from the top of the building.”と表現

すればよいことに気付くことができた（〇〇にはその町の名称が入る）。生徒の多くは、英語で表現できない言葉（例：展望台）があるとそこで発話や筆記がストップしてしまうことが珍しくない。伝えたいメッセージを明らかにすることで、「そういう内容なら習った英語で言え（書け）そうだ。」と気付かせることができる場合がある。

## 2. 理解の領域における評価と指導

理解の領域（聞くこと、読むこと）における各観点が評価することは以下の通りである。

知識・技能	話されたり書かれたりしている英語の意味そのもの
思考・判断・表現	必要な情報、概要、要点
主体的に学習に取り組む態度	言語活動で表出された態度

※「必要な情報」「概要」「要点」は、コミュニケーションを行う目的や場面、状況に応じた必要な情報や概要、要点。指導と評価の一体化という視点から、以下、指導の例を示す。

例：同じ学級の〇〇さんが、『2学期の思い出文集 in English』に載せる原稿を書きましたが、どういうタイトルを付けるかで悩んでいます。〇〇さんの原稿を読んで、その内容にぴったりのタイトルを提案してあげましょう。（「読むこと」の言語活動）

- ①既習内容を活用して文章を読ませる。
- ②〇〇さんが最も伝えたいこと、つまり「要点」を考えさせる。
- ③②を交流して「要点」を明らかにするとともに、「要点」の捉え方を明らかにする。
- ④③で学んだことを踏まえ、別の文章を読み「要点」を捉えさせる。

※④は、時間がない場合は別の機会で行うことも考えられる。

上記の指導過程と「1.」で示した指導過程には以下のア、イの二つの共通点がある。  
ア）「言語活動→指導→言語活動」の過程になっている。

「1.」では、町紹介について書かせ（言語活動）、内容面と英語面から指導し（指導）、再度書き直させる（言語活動）。「2.」も同様であり、まず読ませ（言語活動）、要点は何か、要点の捉え方は何かについて考えさせ（指導）、再度別の文章を読ませている（言語活動）。

イ）「引き出す」、「気付かせる」ことに留意している。

「2.」においても、要点は何かを教師が教えるのではなく生徒から引き出すよう留意して指導する。要点の捉え方については、国語の授業等で学んだことを「引き出し」ながら明らかにするよう努めたい。なお、要点の捉え方としては以下のことが考えられる。

- One paragraph has one main idea or one important point.
- The main idea of a passage usually appears in the beginning of the paragraph.
- The most important points of a passage are often written in the first paragraph and in the last conclusion section as well.
- When the passage starts with a question, the answer to it is usually important information.
- Important points are repeated.

（『平成31年度全国学力・学習状況調査』の結果を踏まえた『指導アイデア例』より）

以上、表現と理解の領域それぞれについての評価と指導について述べた。上記内容に関する詳しい詳細や、上記内容で言及していないこと（評価時期のことや、特定の言語材料に関する「知識・技能」の評価のことなど）については、『指導と評価の一体化』のための学習評価の参考資料に記述した。当該参考資料に必ず目を通し、評価と指導についての理解を深め、それらが一体化された教育活動が全ての学校で確実に実施されることを願っている。

# コミュニケーション活動を取り入れる前に

国際教養大学 専門職大学院 教授 内田 浩樹

## コミュニケーション活動の困難

英語を英語で教える流れが急速に加速する中、コミュニケーション活動（以下C活動と表記）をどのように授業に組み込み、位置付けるかということで苦心なさっている先生が多いのではないのでしょうか。限られた1年間の授業時間の中で、なかなかC活動の時間を確保できないという難しさもあるでしょうし、活動に生徒が消極的だといったような困難もあることと思います。本稿では、これら2つの側面からC活動の効果的な運用について考えていきます。

## 時間の確保＝マインドセットの転換

教科書のすべての課（レッスンまたはユニット）を1年で網羅するのが精いっぱいという状況の中、どのようにしてC活動の時間を確保すればよいのかという問いは、私が最も頻繁に受ける質問です。結論から言いますと、これまでの授業の流れの中にC活動を組み込むのは、ほとんど不可能です。

伝統的な授業展開においては、各課に配置された新しい文法項目に生徒が慣れ親しむことが中心になっています。そして、その次に新出単語、連語などの語句の指導と続きます。それらを理解した上で、各課の本文を読み進んでいくという流れです。このアプローチは、言い換えれば、「正確さ重視」の授業展開です。この方法ですと、文法事項の説明に1時間、そしてパターンプラクティス（文法問題演習）にさらに1時間といったように、文法に多くの時間を費やすこととなります。

文法や語彙を完璧に理解してから読み進むという考え方の問題点は何でしょうか。英語に関して、生徒が今後どのような環境に対応する能力をつける必要があるのかと考えることで、その答えが明確になります。例えば、高校入試。未知の単語や文法が含まれていない状態で英文を3年間読み続ければ、生徒は1つでも知らない単語があると、そこで先に進めないようになっています。定期試験では高得点を獲得できるが、模試や入試では振るわないという生徒は、こうして生まれていきます。新しい時代の英語教育は、正確さを重視する教師のマインドセットを転換することから始める必要があります。

## 正確さと流暢さを育む反復

バレーボールを例に考えてみましょう。レシーブ、トス、スパイクという3つのスキルがあるとして、レシーブを完璧にできるようになってから初めてトスを教え、トスをマスターしたら、次はスパイクを教えるという指導法を選択するのでしょうか。どのスキルも初心者のレベルがあり、そのレベルでできる範囲のことをします。そして、練習や実戦の中で、レベルや精度を上げていくのではないのでしょうか。ところが、伝統的な英語の授業はそうではないのです。1つずつをその場で完全に身に付けさせようとしています。大切なのは、豊富な練習の機会と実践の場です。新出文法は大ざっぱに教えて、使いながら精度を上げていくような授業展開に転換していかなくてはなりません。

一般的な授業展開では、一つ一つの項目を噛みしめながらゆっくりと進んでいきます。スローラーナーを置き去りにしないようにという意識が強く働いた結果として定着していった

指導方法なのだと思います。大きな欠点としては、同じ文やパラグラフに触れる回数が極めて限られてしまい、場合によっては、訳読の時の一度きりという場合さえあるということです。しっかり理解させてから使うステップに進もうと考えれば、どうしてもゆっくりとしたペースになってしまいます。そしてC活動のための時間を確保することはできません。文法などの言語項目には、最大でも1時間で軽く触れて、あとは教科書の本文や、それらの言語項目を含んだ教師のトークにできるだけ多く触れる機会を提供することが大切です。

### たぶんこうかな？と考えるワクワクを

新出単語を例にとってみますと、教科書の本文を読み進む前に指導するのが一般的です。読んで分かるようにしてあげれば意欲が高まるだろうという教師の優しさから定着していったアプローチなのでしょう。私は、生徒の頃、突然提示される脈絡のない新出単語をまとめて指導されるのがとても嫌でした。なぜそれらの単語を学ばないといけないかが分からないからです。いまでも大学で受けた第二外国語の授業のことをよく思い出します。その先生は、いつもいきなりストーリーを音読することから始めました。そして、「分からないところ（単語）があったら線を引きなさい。」と言うのです。直後のグループ活動では、知恵を出し合って意味を推測するように指示されました。これは本当に新鮮な体験でした。分からない単語が目前にあって、自分で推測した「意味」が頭の中に取りました。だから意味を知る必要がありましたし、知りたいと思いました。辞書に頼らず読み進めるといえるのは、辞書を必要としないほどの膨大な語彙を身に付けることではなくて、文脈をしっかりつかんで推測していくスキルを学ぶことだったのです。

### 話さない生徒たち

C活動で最も難しいのは、オーラルのアウトプットを引き出すことでしょう。せっかく機会を与えても生徒はなかなか口を開いてくれません。そんなことが何時間か続くと、「やはり自分の生徒にはまだアウトプットは無理だ」とか「もっと基礎をしっかりと学ばせないと」と考えて、ますます伝統的な文法訳読法に傾いていってしまいます。

生徒が話さないのは、本当に英語力が不足しているからなのでしょう。お子さんをおもちの先生ならご経験済みでしょうが、子どもは、2歳半を過ぎたころから急にアウトプットが盛んになって、親を困らせるほどの言葉の攻防を展開するようになります。子どもの語彙力は高くありませんし、文法構造も未熟です。しかし、子どもは巧みな言葉で必ず欲しいおもちゃを獲得しますし、テレビのチャンネル争いにも勝利します。子どもの発話を文字に起してみますと、理解不能なほどに破綻した文の連続です。しかし、その場の空気や表情などのコンテクストが手伝って、実際の会話では、驚くほど見事に意思を伝えています。その繰り返しを通じて、子どもたちは正確さを磨いていきます。このことから分かる通り、正確さに先んじて流暢さが育つのが自然な言語習得の過程です。

### 間違いが許される教室

すでに第一言語を獲得し、2歳児よりもはるかに優れた思考力を備えた中学生が話さないのだとしたら、語彙や文法能力の問題ではなさそうです。幼児と中学生の決定的な違いは、（臨界期の話は別とすれば）中学生は、間違えることを恥ずかしいと感じる年齢に達しているということです。外国語使用上のこういった感情を言語不安と呼びますが、言語不安は、外国語習得において非常に大きな障壁となります。「自信をもって」とか「間違えてもいいんだよ」といったような教師の声かけはほとんど効果がありません。言語不安は、教室での実体験から形成されたものです。嫌な思いをしたことで心に刻まれた傷は、そう簡単に消えるものではありません。

間違えてもよいのだということは、言葉で伝えられるものではありません。経験として生徒が感じ取ることなのです。生徒が発言をするたびに、他の生徒が拍手をしたり、Good!と声をかけたりするような授業実践をご覧になったことがあるかもしれません。また、活動の前後に掛け声をあげるような場面を見て、違和感があったという先生もいらっしゃるかもしれません。私は、ああいったやり方を積極的にしようとは思いませんが、教室の雰囲気づくりという点では、とてもよく機能していることは確かです。ポジティブな反応が決められていることで、嘲笑したり批判的な視線を送ったりする暇がないのです。結果として、誰が何を言っても、皆が同じように好意的に反応してくれるという安心感が生まれてくるわけです。

### 間違いを見逃さない先生

生徒たちが恐れているのは、クラスメートの前で間違えることではなくて、先生が間違いを指摘して恥を**かかされる**ことなのです。教師は、生徒にしっかり教えたいと思っていますから、生徒の発言に誤りがあれば、修正しなければならないと感じます。教師のこの優しさが言語不安を大きくしているという矛盾についても触れておきましょう。

間違いを修正する方法には大きく分けて2つあります。1つは、明示的修正で、もう1つは、暗示的修正です。例を見てみましょう。

#### 明示的修正

太郎：I like play tennis.

教師：ん？何か足りないね。I like playじゃなくて、I like...?

太郎：I like to play tennis.

教師：そうそう！I like toだったね。Repeat after me. "I like to play tennis"

クラス：I like to play tennis.

#### 暗示的修正

太郎：I like play tennis.

教師：Oh, you like to play tennis.

太郎：Yes.

教師：I didn't know that. Class, repeat after me. "Taro likes to play tennis"

クラス：Taro likes to play tennis.

教師：How about you? Do you like to play tennis? What about you, Keiko?

明示的修正では、「あなたはここを間違えました」と他の生徒の前ではっきりと宣言しています。生徒はとても恥ずかしい思いをします。そのうえ、自分が間違えたせいでクラスメートがその文を言わされているという罪悪感までプラスされているのです。

一方、暗示的修正では、教師は生徒が正しく発言したかのように振舞っています。ただし、生徒が間違えた部分を正しく言い換えてリポートしています。さらに、クラス全体にその文をリポートさせることで、よくある間違いの矯正をクラス全体に対して行っています。教師が正しい文を投げ返すことをrecastとかcorrective feedbackと言います。間違えてもよい雰囲気づくりという点においては、非常に有効な方法です。もちろん欠点もあります。間違いを明示しないので、生徒本人が自分の間違いに気づかない可能性があるのです。しかし、そのマイナス面を上回るのが、生徒が恥を**かかされない**ことです。

発言するたびに間違いを指摘されて恥をかくらぬなら、最初から何も言わない方がいいと思ってしまうような指導をしていないかもう一度振り返ってみる価値はありそうです。

暗示的修正の例に少し付け加えましたが、同じ文を使って他の生徒にも尋ねています。こ

れはとても大切なことです。指名された生徒だけが活動するという流れが定着してしまうと、教師が誰かを指名した時点で、他の生徒は考えることを停止してしまうからです。油断していると、話の続きが自分に飛んでくるという緊張感が生徒の集中力を維持します。こういった緊張感を **comfortable pressure** と呼んでいます。生徒の集中力が途切れがちなことにお悩みの場合には、授業の中に常に **comfortable pressure** を置いているかどうか振り返ってみるといいと思います。タスクを与えるときに一言添えるだけで生徒の取組は変わります。「3分で相談して。あとで 2つのグループに意見を聞きますよ。」あとで尋ねられるかもしれないという軽いプレッシャーを与えておくのですね。

### 練習問題演習＝公開裁判

ワークブックや教科書の練習問題演習は、正確さを高めるうえで重要な活動です。しかし、練習問題には正解がありますから、正しいか間違いかの2つしかありません。「では1番の答えは？〇〇さん」というような答え合わせでは、「あなたは正しいor間違っている」という審判の場になってしまって好ましくありません。グループでお互いに答え合わせをして、もし違う意見が出たら、相談してグループとしての解答を決めるように指示するという方法があります。そして、答え合わせの時も、個人ではなく、グループに尋ねます。こうすることで、間違いの責任が分散されます。この方法のもう1つのメリットは、生徒同士が教え合う機会になるという点です。理解しきれていなかったところをクラスメートの援助(説明)を受けて理解できるようになったり、友人がどこで分からなくなっているのか探ることで、新たな視点を得たり、深く考えたりする機会になります。よく耳にする **scaffolding** (足場かけ) の効果は、生徒個々の学びに限らず、互いを助け合う雰囲気づくりに寄与します。これが、間違えても恥ずかしくないクラス環境につながっていきます。

### 時間の確保のこと、再び

コミュニケーション型の授業の実現には、十分な準備が必要であることがはっきりしてきました。そして、どれも時間がかかる要素を多分に含んでいることも見えてきました。何を切り捨てるのかという議論に進む前に、もう一度、自身の授業に空白の時間がないかどうか確かめてみることをお勧めします。テンポよく進み、それでいて生徒も積極的についていこうとするような、見ていて気持ちのいい授業というものがあります。そういった授業に共通している点は、空白の時間がないということです。自分の授業を録画して、無駄な時間を第三者的視点で探したことがあります。気づかずして時間を無駄にしていたことが分かりました。50分のうち、実に7分もの時間が無為に過ごされていたのです。7分と言えば活動1つ分の時間に相当します。特に、活動の指示に時間をかけすぎていました。また、余分な説明が多すぎました。音読の最中に、生徒の発音が怪しいときには、こんな感じでした。「じゃあ、この単語もう一回読んでおこうね。pressureだよ。Repeat after me, "Pressure!"」

これで6秒かかります。テンポの良い授業をする先生は、何も言わず、その単語だけを繰り返します。それで生徒はついてくるのです。「これから3分あげるから、グループで話し合ってください」という代わりに、「Group work. 3 minutes. Go!」でいいのです。生徒は、私の余分な説明で集中力を切らしていたのです。

### 指導のサイクルを作る

よく進めるためには、1週4時間の場合、授業1～4までの4つのメニューが定まっていることが重要です。各課の内容に関わらず、基本的に同じメニューで進んでいくと、指示は短くできますし、生徒の動きも早くなり、授業にテンポが生まれます。

# 「生きた英語が身に付き、 コミュニケーション能力を伸ばす教育を推進するために」

東京都教育庁指導部国際教育推進担当課長 西貝 裕武

## 1 教室をコミュニケーションの場に

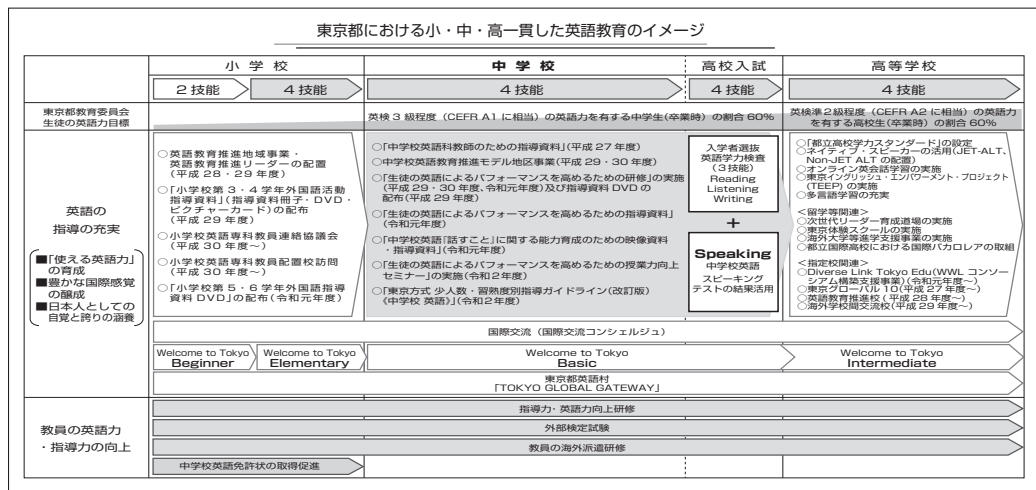
4月から実施される学習指導要領には、「互いの考えや気持ちなどを外国語で伝え合う対話的な言語活動を重視する」とある。皆さんは、教室で、生徒が自分の本当の思いや考えを英語で表現しようと真剣に考える姿に感動したことはないでしょうか。新出事項を英語で導入している時に、生徒とのやり取りの中で、皆さん自身が新しい気付きや驚きを体験したことはないでしょうか。その感動を胸に秘め、ぜひ、教室をそういった本当のコミュニケーションの場にしませんか。

直接生徒を教える先生方、学校、行政、それぞれの立場で力を出し合って、生徒の英語の力を伸ばしていけるような取組を進めていきましょう。

## 2 東京都教育委員会の取組の概要

東京都教育委員会では、平成31年3月に策定した東京都の教育振興基本計画である「東京都教育ビジョン（第4次）」の基本方針の一つである「グローバルに活躍する人材を育成する教育」において、「生きた英語が身に付き、コミュニケーション能力を伸ばす教育を推進する」という方向性で施策を展開している。

今年度より、小学校では、教科としての外国語が高学年に、外国語活動が中学年に導入された。来年度、中学校ではいよいよ新しい学習指導要領が全面実施となる。今回の改訂では、小・中・高等学校で一貫した目標を実現するため、段階的に目標が設定されている。東京都教育委員会においても、小学校から高等学校までの指導の充実、先生方の英語力・指導力の向上のための施策を実施している。次の図は、その内容についてまとめたものである。



次頁より、その中から中学校の「話すこと」能力育成に向けた取組を紹介する。

## 生徒の英語によるパフォーマンスを高めるための 授業力向上セミナーの実施

東京都教育庁指導部義務教育指導課 統括指導主事 森田 剛

本課においては、平成29年度から令和元年度までの過去3年間、「生徒の英語によるパフォーマンスを高めるための研修」を実施し、新学習指導要領の全面実施に向けた中学校英語の指導方法及び評価方法の改善について周知を図ってきた。また、令和2年1月に「生徒の英語によるパフォーマンスを高めるための指導資料」を作成し、研修で発信してきた内容やこれまでに出版されている資料等を収録したCD-Rとともに、中学校外国語科の先生方全員と、小学校に各校1冊ずつ配布した。

今年度は、都内公立中学校、義務教育学校（後期課程）、中等教育学校（前期課程）に在籍する英語科教員（希望者）及び区市町村教育委員会の外国語教育担当指導主事等（希望者）を対象として、授業公開を含めた「生徒の英語によるパフォーマンスを高めるための授業力向上セミナー」を実施することとした。

本セミナーは、毎回異なるテーマで全4回の実施を予定しており、現在第3回までを実施してきている。以下にその概要について紹介する。

### 1 本セミナー実施の目的

新中学校学習指導要領の全面実施に向けた中学校英語の指導方法及び評価方法の改善を図る。

### 2 本セミナー実施の経緯

過去3年間で実施した「生徒の英語によるパフォーマンスを高める研修」（3年間で2,145人の公立中学校英語科教員が受講）におけるアンケート調査の結果から、

(1) 「即興で話す力を高めていく指導」について、

「とても不安がある」「不安がある」の回答は、全体の59.7%

「あまり不安はない」「不安はない」の回答は、全体の40.3%

(2) 「授業は英語で行うことを基本とする」について、

「とても不安がある」「不安がある」の回答は、全体の39.4%

「あまり不安はない」「不安はない」の回答は、全体の60.6%

となっており、新学習指導要領において求められる指導などについて、少なからず不安を感じている先生がいることが分かった。

(3) 「より詳しく知りたい内容（自由記述）」について、

- ・新学習指導要領の趣旨に基づく授業実践の具体例についてもっと知りたい。
- ・パフォーマンステストの実施例や評価基準表実例、パフォーマンステストの実施に向けた指導実践について、実際に見てみたい。

といった意見が多数見られた。これらの結果を踏まえ、今年度は本課作成の指導資料を活用した本セミナーを実施することとした。また、実施に当たっては、今般の新型コロナウイルス感染症の状況から、通常の授業公開を避け、その中でもなるべく多くの先生が受講できるよう、授業映像の視聴及び授業者による解説とすることとした。

### 3 各回の概要等

#### [第1回]

テーマ：単元構成とパフォーマンス評価

日 時：令和2年9月29日（火）午後2時から午後4時45分まで

会 場：東京都教職員研修センター 111 研修室

内 容：(1) 授業公開（授業映像の視聴及び授業者による解説）

授業者：北区立王子桜中学校 根本 誉 主幹教諭

(2) 指導・講評

文部科学省初等中等教育局 教育課程課 情報教育・外国語教育課

山田 誠志 教科調査官

「新学習指導要領の趣旨を踏まえた授業改善と学習評価（パフォーマンス評価）」

#### [第2回]

テーマ：言語活動を中心とした授業展開（オーラル・イントロダクション）

日 時：令和2年10月23日（金）午後2時から午後4時45分まで

会 場：東京都立多摩図書館セミナールーム

内 容：(1) 授業公開（授業映像の視聴及び授業者による解説）

授業者：武蔵野市立第一中学校 坪田 裕希 主任教諭

(2) 指導・講評

玉川大学大学院教育学研究科（教職専攻）

佐藤 久美子 名誉教授・特任教授

「言語活動を中心とした授業—小中連携の視点を通して—」

#### [第3回]

テーマ：既習事項を活用させながら即興性を育む指導

日 時：令和2年12月22日（火）午後2時から午後4時45分まで

会 場：東京都教職員研修センター 803（1）～（4）研修室

内 容：(1) 授業公開（授業映像の視聴及び授業者による解説）

授業者：中野区立中野東中学校 井上 智絵 主任教諭

(2) 指導・講評

文部科学省初等中等教育局 教育課程課 情報教育・外国語教育課

山田 誠志 教科調査官

「新学習指導要領の趣旨を踏まえた授業改善と学習評価（パフォーマンス評価）」

#### [第4回]

テーマ：言語活動を中心とした授業展開（教科書の扱い等）

日 時：令和3年2月5日（金）午後2時30分から午後4時30分まで

会 場：東京都教職員研修センター 地下2階 視聴覚ホール

内 容：(1) 授業公開（授業映像の視聴及び授業者による解説）

授業者：福生市立福生第二中学校 寺沢 陽子 指導教諭

(2) 学習評価に関する協議等

※ 第4回については、次年度に延期

#### 4 本セミナー受講者の主な感想等（第1回～第3回）

- ・新学習指導要領における指導と評価の一体化について、とても分かりやすい内容であった。明日からの授業に役立てていきたい。
- ・パフォーマンステストに取り組ませる際の留意点について学ぶことができた。
- ・授業映像を通じて、即興スピーキング活動の積み重ねの大切さを感じた。3年間を見通して、他の先生方と共通理解を図り指導していきたい。
- ・オーラルイントロダクションのポイントや生徒の英語によるパフォーマンスを高めるための授業、評価について勉強になった。
- ・生徒たちの生き生きとした表情を見て、改めて授業改善に取り組もうと思った。また、明日からの授業改善に向けて勇気をもらった。
- ・実際の授業実践や帯活動の組み立て方など非常に参考になった。
- ・授業映像だけではなく、これまでの授業実践も紹介があったので、長期間の見通しの大切さやヒントを得ることができた。
- ・指導したことが「すぐにできるわけではない」ことを改めて意識するとともに、計画的な指導を教師がいかに意図的に繰り返し、根気強く続けられるか肝に銘じることができた。
- ・「まずやらせてみる」から、指導をし、もう一度やらせてみるというところまで、明日の授業から早速実践したい。

#### 5 次年度に向けて

次年度も新型コロナウイルス感染症の感染状況等の状況を踏まえるとともに、今年度のアンケート結果を分析し、先生方のニーズに少しでも沿った形で実施できるよう、検討を進める予定である。

#### 6 最後に

今年度、本セミナーの開催に当たり、御協力をいただいた刀根会長、山田教科調査官、佐藤名誉教授・特任教授、授業者の皆様、授業撮影でお世話になった校長先生及び当該中学校の先生方をはじめ、本セミナーへの参加を希望していただいた全ての先生方に改めてお礼申し上げます。

#### (参考) 授業改善に向けて参考となる資料（東京都教育委員会・文部科学省）

- 生徒の英語によるパフォーマンスを高めるための指導資料  
(東京都教育委員会 令和2年1月)
- 子供たちに未来の創り手となるために必要な資質・能力を育む指導と評価の一体化を目指して(東京都教育委員会 令和2年9月)
- 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料  
(国立教育政策研究所 令和2年3月)
- YouTube 文部科学省公式チャンネル MEXT Channel
  - ・外国語教育はこう変わる！(新学習指導要領に基づく授業改善についての動画)
  - ・「なるほど！小学校外国語」(言語活動、読むこと・書くこと、学習評価)
  - ・ICTの効果的な活用に関する解説動画

## 東京都中学校英語スピーキングテスト事業

東京都教育庁指導部 主任指導主事 大泉 昌明

指導企画課国際教育推進担当では、小・中・高等学校で一貫した英語教育を推進するため、中学校3年生の英語「話すこと」の能力を評価するための「中学校英語スピーキングテスト」を次のとおり実施している。

### 1 実施の目的

- 中学校における英語4技能育成に向けた「話すこと」の指導の充実を図る。
- 都立高等学校入学者選抜に「話すこと」に関する評価を活用する。
- 高等学校における「使える英語力」を育成するための指導の充実を図る。

### 2 スピーキングテストの内容及び実施方法

- 中学校学習指導要領における「話すこと」に基づいた内容を出題

<令和2年度 出題のねらい>

パート	出題数	大問のねらい
A	2	英文を読み上げる形式の問題で英語音声の特徴を踏まえ音読ができる力をみる。
B	4	図示された情報を読み取り、それに関する質問を聞き取った上で、適切に応答する力や、図示された情報をもとに「質問する」、「考えや意図を伝える」、「相手の行動を促す」など、やり取りする力をみる。
C	1	日常的な出来事について、話の流れを踏まえて相手に伝わるように状況を説明する力をみる。
D	1	身近なテーマに対して、自分の意見とその意見を支える理由を伝える力をみる。

- タブレット端末を使用し、解答音声を録音する方式で実施

<試験の流れ>



### 3 スピーキングテスト導入のスケジュール

令和2年度及び令和3年度のプレテストを経て、令和4年度から本格実施

年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度以降	
種類	確認プレテスト①	確認プレテスト②	スピーキングテスト	
具体的事項	対象	一部抽出校	都内公立中学校第3学年 全生徒及び都立高等学校 入学者選抜受検予定者	
	時期	令和2年10月から 11月までの期間	令和3年9月から 10月までの期間	11月第4土曜日から 12月第2日曜日までの 期間における土・日
	会場	中学校、外部会場	中学校、外部会場	外部会場

※都立高等学校入学者選抜においてテスト結果を活用（予定）

### 4 結果返却

今後の学習への見通しがもてるように、受験者一人一人に次の内容を表示したスコアレポートを返却する。

- (1) 受験者の話す力に関するスコア及び段階別評価
  - (2) 英語を使ってできること
  - (3) 受験者の英語をレベルアップさせるための学習アドバイス
- また、各実施校には結果及び結果分析資料を送付する。

### 5 スピーキングテストの活用

東京都教育委員会外国語教育に関するHP「東京ポータル」には、本事業のページを開設し、以下の内容を掲載している。本テストで測定する「話すこと」の能力は、中学校学習指導要領の目標としている資質・能力の一部ではあるが、授業における「話すこと」の指導及び評価の参考としたり、授業における言語活動やパフォーマンステストの実施、家庭学習等に活用したりすることが可能である。また、令和2年度の問題冊子及び冊子の活用資料については、都内公立中学校に別途送付している。併せて御活用いただきたい。

#### ■ 過去問題（令和2年度・令和元年度）

問題動画（解答例あり）、問題動画（解答例なし）、  
問題スクリプト、採点基準

<令和2年度問題スクリプト>

The screenshot displays the test interface with three main sections:

- Part A:** A text passage about a school newspaper club and a question: "Welcome to Tokyo. Is this your first time here? There are many different places to see. First, we'll tell you about some good parks to visit. After that, we'll talk about the most popular streets for shopping in Tokyo." Below it is a question: "What's the most popular event at your school? Answer the question and explain why people like it." (Note: The question text in the image is partially obscured by the QR code).
- Part B:** A weather forecast table for Friday, October 30th.
 

	Friday	Saturday	Sunday
晴	晴	晴	晴
雨	雨	雨	雨
- Part C:** A class schedule table for Friday, October 30th.
 

Open Class	
	Friday, October 30th
Math	8:25 - 9:30 am
Science	9:35 - 10:40 am
English	10:45 - 11:50 am



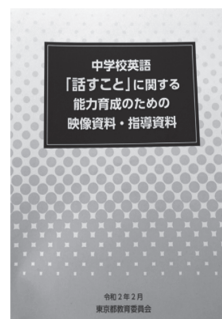
<http://tokyo-portal-edu.com/speaking-test.html>

※このテスト問題及びそれに付随する採点基準・解答例の著作権は、試験実施団体に帰属します。

## 中学校英語「話すこと」に関する 能力育成のための映像資料・指導資料

東京都教育庁指導部指導企画課 統括指導主事 堀内 明

指導企画課国際教育推進担当では、中学生の英語「話すこと」に関する能力を育成するために、英語科教員及び生徒を対象とする「中学校英語『話すこと』に関する能力育成のための映像資料・指導資料」を作成し、平成31年3月末に都内の全公立中学校に配布した。資料の内容や活用例について紹介する。



### 1 資料の内容

#### (1) 全体構成及び特徴

- 映像資料（DVD）及び指導資料（冊子及びデータ）で構成
- 映像資料及び「話すこと」トレーニングは、Stage 1 から Stage 3 までの3種類があり、授業の進捗や生徒の実態を踏まえて選択して活用することが可能
- 指導資料には、授業で言語活動を行う際に活用できるワークシート等を収録

	教員用	生徒用
映像資料	<ul style="list-style-type: none"><li>◆解説（生徒たちに身に付けさせたい資質・能力、本資料の活用方法、等）</li><li>◆「話すこと」に関する能力を育てる指導事例教員によるモデル授業及びインタビュー（やり取り、発表、オーラル・イントロダクション）</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>◆言語活動のモデル映像 [Communication] [Practice] やり取り、発表（状況描写・説明） 発表（スピーチ）</li></ul>
指導資料	<ul style="list-style-type: none"><li>◆言語活動のモデル映像スクリプト</li><li>◆「話すこと」トレーニングスクリプト及び解答例</li><li>◆場面別・機能別表現一覧</li><li>◆言語活動のモデル映像各トピック「できること」リスト</li><li>◆「話すこと」トレーニング「できること」リスト</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>◆言語活動のモデル映像ワークシート</li><li>◆言語活動のモデル映像トピック「できること」リスト</li><li>◆「話すこと」トレーニング「できること」リスト</li></ul>
トレーニング	<ul style="list-style-type: none"><li>◆テキストを音読する</li><li>◆状況を描写・説明する</li><li>◆質問に答える・質問する</li><li>◆考えや意見を述べる</li></ul>	

#### (2) 言語活動のモデル映像

やり取り、発表（描写・説明）、発表（スピーチ）の言語活動について、各 Stage とも【Practice】と【Communication】の2種類の映像で構成されている。

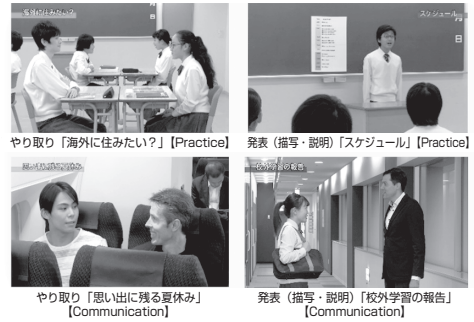
- 【Practice】授業で行う言語活動の例を紹介
- 【Communication】言語活動で扱う言語材料等が、実際にはどのような目的や場面、状況で使われるのか、その具体的な例を紹介

各 Stage には、3つのトピックが収録されている。視聴のための時間も1～2分程度となっており、授業で視聴することにより、生徒は短時間で言語活動やコミュニケーションの具体的なイメージをもつことができる。

## <トピック一覧>

言語活動	トピック		
やり取り	● 小学校の思い出 ● 誕生日のプレゼント ● 環境にやさしい生活	● 好きな動物 ● 思い出に残る夏休み ● 都内のおすすめの場所	● 週末の習慣 ● 海外に住みたい？ ● 休暇で訪ねたい場所
発表 (描写・説明)	● スケジュール ● 天気予報 ● 日本の食べ物	● 施設の紹介(I) ● 施設の紹介(II) ● 自分たちの地域紹介	● 私の宝物 ● クラスでリサーチ ● 校外学習の報告
発表 (スピーチ)	● 自己紹介 ● 将来の夢 ● 日本文化の紹介	● 好きなスポーツ ● 好きな季節 ● 東京の見どころ紹介	● 人物紹介 ● 行ってみたい国 ● 中学校の思い出

## <実際の映像より>



### (3) 「話すこと」トレーニング

映像を視聴しながら、「話すこと」の練習に取り組むことができる。練習の後には、それぞれ解答音声収録されている。

#### <全体構成>

テキストを読み上げる	書かれた内容を表現するよう声に出して読む。
質問に答える・質問する	テーマに沿って、事実や考えを整理し、簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりする。
状況を描写・説明する	テーマに沿って、事実や考えを整理し、簡単な語句や文を用いて、まとまりのある内容を話す。
考えや意見を述べる	テーマに沿って、事実や考えを整理し、簡単な語句や文を用いて、まとまりのある内容を話す。

#### <実際の映像より>



### (4) 指導資料

冊子版指導資料には、映像資料を授業で活用いただくための映像のテキスト及びワークシート、表現集及び「できること」のリスト等を収録している。

## 2 授業での活用例

### <「やり取り」の言語活動の例>

- ①映像資料[Communication]の視聴  
コミュニケーション(やりとり)が行われる目的や場面、状況を理解する。
- ②映像資料[Practice]の視聴  
授業で行う言語活動のイメージをもつ。
- ③言語活動  
ワークシート等を用いて、ペアやグループで実際のやり取りを行う。
- ④振り返り  
活動の振り返りや教師によるフィードバックを行う。
- ⑤帯活動で定着  
授業毎に③と④を繰り返し行い、定着を図る。

### <「発表」の言語活動の例>

- ①映像資料[Communication]の視聴  
コミュニケーション(描写・説明、スピーチ)が行われる目的や場面、状況を理解する。
- ②映像資料[Practice]の視聴  
授業で行う言語活動のイメージをもつ。
- ③準備  
ワークシート等を用いて情報を整理し、自分の考え、気持ち等をまとめる。
- ④言語活動  
クラス等で発表する。  
発表内容に関する質疑応答を行う。
- ⑤振り返り  
活動の振り返りや教師によるフィードバックを行う。

## 英語教材 “Tokyo Global Studio” の作成

東京都教育庁指導部 主任指導主事 窪田 香

指導企画課 国際教育事業担当では、英語を使う楽しさや有用性を体感できる英語教材 Tokyo Global Studio の専用ウェブサイト を 10 月にオープンした。本教材は、小学生・中学生・高校生・教員向けの動画コンテンツとワークシートを組み合わせ、コンテンツ化したもので、3 月末までに全 100 本を掲載の予定である。教材作成に当たっては東京都英語村 TOKYO GLOBAL GATEWAY (TGG) の施設、外国人スタッフ、ノウハウを活用しており、小・中学校向けの教材は、学習指導要領に基づく内容、高校向けの教材は、学習指導要領を踏まえながらも、より幅広く発展的な内容を扱っている。



URL <https://www.tgs.metro.tokyo.lg.jp/>

### (1) 教師用指導資料

「児童・生徒の発話を引き出し思考力を高める外国語指導に向けて

～東京都英語村 TOKYO GLOBAL GATEWAY での実践から～

TGG で提供しているメソッドを、学校の授業に活かせるよう、映像とテキストで具体的に解説したものである。児童・生徒の発話を引き出す方法や、TGG のプログラムに取り入れている CLIL の解説等も収録している。

テキスト本冊の収録内容：

- 第1章 児童・生徒が積極的に授業に参加し自発的に発話する工夫
- 第2章 授業を活性化する様々な工夫
- 第3章 レベルに応じた質問の仕方と効果的な発話の引き出し方
- 第4章 授業に CLIL\* を取り入れてみよう

\* Content and Language Integrated Learning（内容言語統合型学習）の略

※別冊付録には、本冊で紹介した内容を授業で活用するための素材を収録

※映像 DVD 付き本冊・CD-R 電子データ付き別冊付録を各校 1 冊ずつ 11 月に配布済

※上記 Tokyo Global Studio ホームページからもダウンロードが可能（区市町村教育委員会・都立学校に通知したパスワードを入力）

## (2) 中学生向けコンテンツ (Tokyo Global Studio “Basic”)

新学習指導要領において、「言語活動を通して簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図ること」が目標として設定され、特に、「話すこと (やり取り)」の領域においては、「簡単な語句や文を用いて即興で伝え合うこと」が目標として設定されている。各中学校においては、身の回りのことで生徒が共通して関心をもっていそうなことを、扱う文法事項に合わせ、生徒が即興で話せるようにテーマ設定することが必要となってくる。

Tokyo Global Studio 中学校向けコンテンツでは、こうした状況に対応し、文法、フレーズや語彙等の定着だけでなく、場面に応じて英語で説明したり質問に回答したりするスピーキング力の育成を目指し、中学校において習う主な内容別に全 40 本を順次リリースしている。各コンテンツの流れは以下のようなものである。

### < Unit 21 「目的や理由を伝えたり、すべきことを伝えたりしよう

to 不定詞 (副詞的用法・形容詞的用法)」の例>

#### ① TGG の外国人スタッフによるターゲット文法の使用場面を伝えるドラマ



場面を見る。

ポイントを確認しながら見る。ポイントを繰り返して言う。

#### ② ドラマに関する Q&A

質問例) Why is MJ going to the City Library? 等

#### ③ ターゲット文法の理解を図るワークシート

(コンテンツ毎にダウンロードできるワークシートを掲載 A 4・2 枚、解答解説付)

TokyoGlobalStudio	
<b>Basic</b> <b>Unit 21</b>	<b>目的や理由を伝えたり、 すべきことを伝えたりしよう</b> to 不定詞 (副詞的用法・形容詞的用法)
Grade _____ Class _____ No. _____	Name _____
<b>POINT</b>	
■ 「～するために」や「～するための」を表す不定詞 (to+動詞の原形) を to 不定詞という。to 不定詞には主に 3 つの用法がある。	
① 「～するために」という意味で、動作の目的や理由を表す働きをする to 不定詞を副詞的用法の to 不定詞	

#### ④ ターゲット文法を使った 30 秒程度で読める英文の音読練習

#### ⑤ 即興で質問に答えるトレーニング

質問例) What do you usually do to relax? 等

※コンテンツによっては、絵を説明する形式のものもある。

授業において、ドラマ部分を活用し、各単元の導入時にターゲット文法の使用場面を生徒と確認する、家庭学習として、該当単元に映像を見て予習や復習を行わせる、また、家庭学習において即興で質問に答えるトレーニング部分について自分なら何と答えるか考えさせ、授業において何を答えたかグループでシェアするなど、家庭学習と授業を組み合わせることもできる。学校での授業や家庭学習等の形態を問わず、幅広く御活用いただきたい。

## 外国語（英語）に関する研修について

東京都教職員研修センター 統括指導主事 小野 昌徳

東京都教職員研修センターでは、都内の公立中学校（都立中学校、中等教育学校、義務教育学校、特別支援学校を含む）の英語科の教員を対象に、指導力向上と英語力向上の二本立てで専門性向上研修を実施しています。令和2年度に計画・実施した講座を以下のとおり紹介します。

### 1 指導力向上を目指した研修

#### (1) 文部科学省教科調査官を講師とした研修

##### ①英語Ⅰ（中基礎）

「中学校外国語科の授業づくりの極意！－基本的な授業展開や指導法、学習評価－」  
中学校学習指導要領の目標及び内容等を理解し、基本的な授業展開や指導法、学習評価の基礎・基本を学びます。

〔講師〕 文部科学省 初等中等教育局 教科調査官 山田 誠志 先生

##### ②英語Ⅱ（領域別目標）

「中学校外国語科の学びにつなげる小学校外国語科－領域別学習到達目標の理解－」  
小学校から中学校までの系統的な指導の在り方について学び、小学校外国語科の指導力を高めます。

〔講師〕 文部科学省 初等中等教育局 視学官 直山 木綿子 先生

#### (2) 大学と連携した研修

##### ①英語Ⅰ（ALT）

「教えて！外部人材と連携した授業づくり－効果的なALT等の活用や授業の工夫－」  
中学校及び高等学校におけるALT等の効果的な活用や授業の工夫などの基礎・基本を学びます。

〔講師〕 桜美林大学 准教授 多々良 直弘 先生

##### ②英語Ⅱ（指導の要）

「外国語科指導の要！－小・中・高10年間の指導の流れをつかむ－」  
中学校における英語教育の今日的な課題とこれからの指導の在り方について理解し、小学校や高等学校との円滑な接続を図る指導について学び、中学校英語の指導力の向上を図ります。

〔講師〕 東京学芸大学 准教授 白倉 美里 先生

### ③英語Ⅱ（使える英語）

「使える英語の教え方！ーコミュニケーションを図る資質・能力を育成する指導法や授業づくりー」

五つの領域の言語活動を通して、コミュニケーションを図る資質・能力を育成する指導法や授業づくりについて学び、中学校英語の指導力の向上を図ります。

〔講師〕 昭和女子大学 教授 金子 朝子 先生

### ④英語Ⅲ（中インタラクション）

「英語でインタラクションする授業（中学校）ー「話すこと」の目標の実現を目指してー」

「話すこと」の領域において設定する目標の実現を目指した指導を通して、コミュニケーションを図る資質・能力を育成する指導法を学び、校内で英語教育を推進する力を高めます。

〔講師〕 文教大学 教授 阿野 幸一 先生

## 2 英語力向上を目指した研修

### (1) 外部委託者所属の外国人講師等による研修

#### ①「英語力向上集中講座（中学校）」

外国人講師等との英語による会話等を通して、「話す力」を高めます。

#### ②「英語でプレゼン実践講座（中学校）」

外国人講師等との英語による会話等を通して、発表に必要な英語力を高めます。

#### ③「英検（準1級・1級）取得支援講座」

英語検定（準1級・1級）を取得することを目標として、実践的な英語力を高めます。

#### ④「TOEIC（730点・860点）突破支援講座」

TOEIC L&R（730点以上・860点以上）を取得することを目標として、「聞く力」「読む力」を高めます。

令和2年度 東京都教職員研修センター 英語力向上研修

東京都教職員研修センターでは、令和2年度も英語力向上に関するさまざまなニーズに応える研修を開催します。各研修の日程の詳細は、裏面に掲載しています。

※※の数は、授けられる授業数を表します。

**英語でプレゼン実践講座 小・中・高・特 3★**  
発話力の向上を目指した講座を小・中・高各学校の校種別に開設し、180名募集  
授業を行う必要のある英語力を向上させる演習を行います。  
小学校の講座は、標準クラスと発展クラスの内、どちらかを選択できます。

【おすすめのポイント】少人数の中で指導を受けられるので、毎回のクラスに安心して取り組めます。

**英語力向上集中講座 小・中・高・特 3★**  
スモールトーク（作り取り）の力を高められる講座を小・中・高各学校の校種別に開設し、280名募集  
今年度の研修場所は、立川合同庁舎です。

【おすすめのポイント】夏のある講座。短時間で効果よく、英語力のブラッシュアップができます。

**ONE DAY はじめての小学校英語講座 小・特 3★**  
英会話を一体験する講座を、日ごとに標準クラスと発展クラスを分けて開設し、800名募集  
好評につき、今年度も10回開催します。  
場所は教職員研修センター（水産園）と都立多摩図書館（西国分寺）の2会場で開催します。

【おすすめのポイント】英語学習がはじまらなくちゃいけない方が楽しく参加できる講座です。

**東京イングリッシュガイド養成のための指導者養成研修 3★**  
「バスで都内をまわろうながら、英語で東京を紹介し、観光地ポイントや人気スポットを案内する係のガイドを学びます。コースは「Welcome to Tokyo（芝公園周辺）」と「江戸から東京へ（上野周辺）」の2つです。

**英語資格取得支援講座 小・中・高・特**  
内容  
○英検準2級・2級・準1級・1級取得  
○TOEIC L&R 730点・860点突破  
英語資格を取得することを目標とした講座です。自主学習を含め、特設アドバイザーをします。

**申込方法：「マイ・キャリア・ノート」で申込み**  
一次募集は、4月13日午後2時から4月24日午後2時まで  
二次募集は、5月20日午後2時から5月29日午後2時まで  
※ただし、二次募集対象の講座は限られます。  
問合せ先：東京都教職員研修センター研修部専門教育向上課 03-5802-0297  
Eメール： [https://www.kyokai-kensyu.metro.tokyo.lg.jp/](mailto:https://www.kyokai-kensyu.metro.tokyo.lg.jp/)

## 3 令和3年度の研修について

令和3年度の研修内容は、今後、東京都教職員研修センター HP に掲載される「研修案内」又は「マイ・キャリア・ノート」を御覧ください。

# 「今、小・中学校の英語教育に求められるもの」

～小学校高学年における英語教育の教科化を踏まえて～

東京都小学校外国語教育研究会（都小外研・TEFLEA）会長  
三鷹の森学園三鷹市立高山小学校長 吉村 達之

中学校の英語科教員だった私が、小学校の管理職として小学校に移って来てから早10年が経った。英語活動として緩やかに始まった小学校における英語教育は、この間に飛躍的な広がりを見せた。英語活動が導入され始めたころ、指導主事だった私が担当した英語活動研修会に、多くの小学校教員があからさまに不機嫌な顔をして参加していた状況とは隔世の感がある。そしてついに、今年度からは、学習指導要領の全面改定に伴い、高学年では「外国語（英語）」として新たな教科となった。これにより、5年生以上は、教科書を使って年間70時間、英語を学習することになり、中学年（3・4年生）は「外国語（英語）活動」として、年間35時間の学習が位置づけられた。

## ○小学校における英語教育の課題と展望

小学校では、中学校と違い、英語専科教員は都内ではごく一握りの大規模校にしか配置されていない。大半の英語の授業は、全員が必ずしも英語が得意とは言えない、これまで英語を教えた経験のなかった学級担任が行っている。英語を教えたくない（教えられない）から、高学年の担任になるのを避けるといった本末転倒の事例も聞く。指導をALTに丸投げして、授業中にもかかわらず、自分は教室の後方でテストの採点をするというような、あきれた状況も見聞きしてきた。

ここ数年、都や各市区町村教育委員会は、小学校教員対象のバラエティに富んだ英語研修を用意したり、ALT以外にも指導補助の人員を配置したりして、特に英語教育に力を入れて予算化してくれてはいるものの、なかなか現場には浸透していかないという現状がある。私が会長を務める東京都小学校外国語教育研究会（TEFLEA）は、教諭から校長まで、全都から集まった約70名の教員が役員を務め、今年度も感染予防の徹底を図りながら研修会を企画してきた。昨年度、のべ1,000名近くが研修会に参加するなど活気あふれる研修の場となっているが、東京都全体から見れば、ごく一部に過ぎない。

こういった現状がある中、今年度から始まった英語の教科化は、英語独特の指導技術の習得や新しい評価方法を研究しつつ、まさに走りながら形作っている最中であると言える。

一方、新型コロナウイルスの流行に伴い、文部科学省のGIGAスクール構想が前倒しとなり、多くの都道府県で、児童・生徒に1台ずつタブレットが貸与され始めていることは朗報である。このことは、今後、各教科における指導方法や教育活動全般にまで大きな変革をもたらすであろうことが想定されるが、こと英語教育にとって大きな進展であることは間違いない。

タブレットを活用すれば、小学校の担任の英語力不足を動画やドリル教材で補完したり、児童が主体的に、個別最適化された音声や動画教材を使って英語学習を進めたりすることが可能となる。活用の仕方次第で、英語指導の革命を起こす、画期的なアイテムとなり得ることは間違いない。

## ○中学校における英語教育の課題と展望

昨年度あたりから、学習指導要領の全面実施を間近に控えている、中学校の英語の

研修会に呼ばれることが多くなってきた。英語を適度に、適切に使って、生徒に無理なく、すてきな授業をしている先生もいれば、若手にもかかわらず、旧態依然の講義型に近い指導を展開している授業もある。自分が帰国児童・生徒であったことを前面に出し過ぎて、生徒の英語力とはかけ離れたまま、All English の授業が全く理解されずに終わってしまっている例もあった。(なんでもすべて英語で指導すれば良いというものでもない。)

そのような授業で、どの授業にも言えるのは、「そんなことは、もう小学校で何回もやってきているよ。」という、生徒の心の叫びが聞こえてくるように思う場面がいくつもあったということである。

新しい学習指導要領の全面実施を機に、これまでの自分の授業スタイルを英語科教員一人一人がリセットし、一から構築し直していく必要がある。私自身もそうであったが、駆け出しのころから形作られた授業スタイルは、ベテランになればなるほど、変えるのには勇気がいるし、エネルギーも必要である。しかし、新学習指導要領は、これまでの指導要領とはコンセプトが大きく異なる。さらに、授業時数は増えないまま、指導すべき新出単語は、小学校で定着まで求められていない既習語を含めれば、これまでの倍の単語数がある。仮定法や現在完了進行形など、定着が難しい新しい学習事項も増える。同じような授業スタイルを続ければ、行き詰まるのは必至である。小学校における210時間に及ぶ英語の授業を熟知し、児童の学びをいかに、英語力を伸長させる指導の工夫が必須となる。

### ○英語教育における小中接続の重要性

昨年、岩手県のある市の教育委員会が主催した、小学校の英語担当と中学校英語科教員対象の一日研修会に呼ばれた。講義の冒頭、全員に質問してみた。「小学校の先生で中学校の英語の教科書を見たことがある方、中学校の先生で小学校で使われている“*We Can!*”(当時はまだ教科書は出ていなかった)を見たことがある方、手をあげてください。中身を詳しく読んでなくても良いです。とりあえず、見たことはあるという先生、挙手をお願いします。」200人近い参加者のうち、この質問に「ある」と手をあげたのは小学校教員の2割、中学校教員の1割程度であった。「詳しく読んだ」という条件を付ければ、おそらくもっと少なくなったことが予想される。

児童・生徒が、英語によるコミュニケーション力を発達段階に応じて蓄積しながら生涯にわたって学習し、活用していくスタート地点、ベースとなる義務教育段階では、これまでどのような学習してきたのか、これからするのか、しっかり把握しながら9年間を見通して指導することが大変重要となってくる。積み上げの無いところにコミュニケーション力は育たない。これまで同様、長年英語を学習してきたにもかかわらず、ほとんど話せない、聞き取れない日本人を作るだけである。

私が勤務する三鷹市では、コミュニティスクールを基盤とした小中一貫教育を進めて、10年以上になる。市の英語教育研究会も小中合同で行い、お互いの授業を見合い、異校種の学習指導要領をよく理解しながら、小中お互いの授業の悩みや工夫を話し合う研修(写真)なども行き、相互の理解を深めている。このことは、9年間を通して英語教育をする上で、大きな効果をもたらしている。

### ○これからの英語教育に期待するもの

英語学習に、小・中・高・大という区分はない。連続性があるのみである。その連続性を小から中、中から高へと、どうつないでいくのか。各校種の役割を踏まえ、授業改善と指導の工夫を期待したい。一緒に頑張ろうではありませんか。



# 令和2年度・第73回英語学芸大会の運営にあたって

副会長 事業部担当  
葛飾区立亀有中学校長 平岡 栄一

## 1 実施方式の変更について

東京都中学校英語学芸大会は今年度も12月初旬の日曜日、都内公立中学校の体育館をお借りして集合開催方式で実施される計画でした。しかし新型コロナウイルス感染症の影響による全国一斉の臨時休校、緊急事態宣言発令、東京オリンピック2020の延期、運動部や文化部の全国大会や地区大会の中止等が決定されていく中で、400～500名が集合して、スピーチやプレイを行うことは危険が伴うと判断しました。しかし、一方で、生徒のために何かできないか、安全な方法はないかと考えていたところ今回の方式に至りました。

## 2 工夫したところ、配慮したこと

今回の運営にあたり、主に以下について配慮しました。

項目	内容	配慮したこと、意図したこと
開催方式	ビデオ審査による	物理的な距離に関係なく参加できる。時間のある時に準備できる。感染状況に関わらず実施できる。
応募期間	30日間とる、期間後も受領する	各校が方式に不慣れである。各自治体のセキュリティ等の関係で応募に手間がかかる可能性あり。
参加申込	各校最大3エントリーまで地区推薦を不要にする	地区大会が実施されないため、参加できないことを防ぐため。気楽に参加してほしい。楽しんでほしい。
Speakingの部	Speaking Bも表彰する	語学力をさらに高め、皆と協力して国際親善や国際貢献に力を発揮してほしい。
Playの部	制限時間5分、編集可	提出データサイズを小さくする。練習時間を短縮して感染リスクを下げる。編集すれば5分でもまとまりのある作品となる。
Performanceの部	新規に設置、順位なし	英語を使って皆で楽しみ、学習意欲やコミュニケーション能力を高めてもらいたい。
プラットフォーム	Google Formを使用する	提出作品の取りまとめが自動的に完了する。スマートフォンやタブレット端末からも応募が可能である。
ホームページ	Google Suiteを使用する	内容の更新が容易である。事業部員がリモートで複数名で同時に作業できる。
審査	オンラインと集合審査併用	作品数が多いため、第一段階はオンライン審査、第二段階では審査員が同一会場に集まり、同時に動画を見て審査をした。
表彰	表彰状や記念品は郵送する	表彰状や記念品は郵送する、一部デジタル賞状をデータ送付する。

## 3 応募状況等

応募については、令和2年12月末日時点でSpeaking A が66、同Bが9、Playが11、Performanceが23で、合計では109のエントリーをいただきました。

それぞれ作品の完成度は大変高く、様々な工夫があり、各生徒の練習や努力の積み重ね、感染予防に配慮しながら丁寧にご指導された先生方の様子が目に浮かびました。

Performanceの部では、歌や踊り、英語落語や漫才、ミュージカル等、英語で楽しんでいる生徒の姿、先生方も楽しまれていて、部門の特性を存分に生かしていただきました。

## 4 皆様への感謝、今後の課題

今回、様々な困難の中、ご参加やご協力いただいた全ての皆様へ感謝いたします。「英語学芸大会」については、次年度以降も可能な方法で計画させていただきます。集合開催、オンラインそれぞれの利点を併せることができればと考えています。また、素晴らしい作品を多くの中学生、保護者や指導者にお見せできたらとも思います。

皆様におかれましては、生徒の英語運用能力の向上、課題に立ち向かう姿勢や、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度の育成のため、引き続き何卒よろしくご申し上げます。

# 都中英研・研究部公開授業を終えて

江東区立第四砂町中学校 主任教諭 水嶋 諒

## はじめに

令和2年2月21日（金）に、東京都中英研研究部の研究発表会及び公開授業が開かれた。私は研究部の一員として、公開授業の授業者をさせていただく機会を得た。指導助言を引き受けてくださっただけでなく、激務の中、公開授業までの間に何度も私の授業を見に来てくださり、ご指導をくださった玉川大学文学部教授 日臺滋之先生、遠い所をお越しいただいた先生方、そして研究発表会及び公開授業の運営をしてくださった研究部の先生方に感謝を申し上げたい。

## 研究テーマと公開授業の関連性

昨年度の研究部のテーマは、「研究部基本語い 1200 と語い指導再考 (2)」であった。公開授業の指導内容について研究テーマと関連する点は、以下の (1) と (2) に示す。

### (1) 「研究部基本語い 1200」について

生徒が英語をアウトプットする活動、特に生徒同士のやり取りにおいて、生徒がどのような語いを使用しているかを調査した。その調査の結果、話すこと（やり取り）を通した語い力を高める指導の工夫として、①やり取りの前に考える時間を与えること、②質問の答え+α、③トピックに関わることの説明や感想、④やり取り後のフィードバックが挙げられた。公開授業では、導入時に行う 2-minute-chat において、前述の①、②を指導する。また、授業の終わりに、reflection sheet（振り返り用紙）に、「授業で、英語で言いたかったけど、分からなかった英語」を日本語で書かせることで、上記④のフィードバックを生徒に行わせた。

### (2) 「語い指導再考 (2)」について

実際のコミュニケーションで使用できるように語いを身に付けさせるために、授業の中で、どのような指導が有効でどのような活動をすればよいかを研究した。研究の過程の中で、Nation (2001) の four strands に基づき、授業の中での語い指導を分類した。

本時の授業においては、retelling の発表が、Nation の four strands における meaning-focused output に当たる。また、2-minute-chat が fluency development に当たる。

昨年度の研究部の研究の詳細及びNationのfour strandsについては、研究部ホームページから閲覧できる「語いと英語教育(43)」を是非ともご覧いただきたい。

公開授業では、授業者である私自身が驚くほど予想していたよりも生徒たちが頑張り、2-minute-chatやretellingの中で、日々の授業の中で学んだ表現を用いて、英語で自身の考えを話そうとしていた。指導助言者の日臺先生からは、我々研究部の研究に対する指導・助言だけでなく、公開授業についても「説明のつく授業であった」という評価をいただいた。

### おわりに

当日は、新型コロナウイルスが全国で流行り始めている中、100名以上の方に参加していただき、研究協議ではご意見もいただいた。また、多くの先生方から当日対象クラスだった生徒達へ温かいメッセージもいただいた。私は今回の公開授業者に立候補をさせていただき、幸運にもその機会に恵まれた。立候補した理由は、研究部の研究は、「研究のための研究」ではなく、日々の授業に生かすことができる実践研究であることを研究部以外の先生方に伝えなかったからである。私の力不足で、その意図がどれほど伝わったか分からない。しかし、研究部の研究を日々の授業の中で実践に活用したことで生徒達は間違いなく変わった。研究部の先輩からは、「水嶋さん、ここからがスタートだよ」という激励をいただいた。「さぁ！来週の授業からさらに頑張ろう！」と思っていた矢先の、全国一斉休校であった。同時に研究部の毎月の例会も中止となった。

対象学級であった生徒達は3年生となった。ほとんどの行事が中止となったが、決して後ろ向きにならずに、常に前向きに学校生活を送っている。最後に、当日予想以上に頑張ってくれた生徒と、快く会場片付けなどを手伝ってくださった勤務校の教職員の方々に感謝したい。

## 「聞き手に+1」

発表者(Raj):日本の有名なものは何か、聞き手に質問しよう!

### What is Japan famous for?

聞き手:「日本の有名なもの」と「その理由」をRajに伝えよう。

聞き手を引きつけるために

- ①聞き手に質問をし、やり取りをしよう。
  - ②教科書本文から、「あ、この文使える!」という文を見つけてよう!
  - ③オリジナル文を加えよう!
- ★原稿を書くと、ただの「音読」!単語とかフレーズのみメモに留めて、頭の中で言いたいことを英語にしてみよう!



# 東京教師道場での取り組みについて

八王子市立檜原中学校 教諭 中山 文

## 1 東京教師道場の概要

東京教師道場とは、5名の部員と1名のリーダー、担当教授からなる班で、主に授業観察と協議からなる授業研究を行う2年間の研修である。1年次の初めにリーダーによる模範授業を観察する。その後、部員が交代で毎月授業研究を行う。授業研究には、「事前の指導案検討」「当日の授業観察と協議会」「改善指導案作成」が含まれ、そのサイクルを2年間継続して行う。一つの大きな特徴は、小・中・高による学校種を越えた授業研究を実施することである。その結果、児童・生徒の学習がどのような系統性をもって進められるのかということについての具体的なイメージをもって指導に当たることができるようになる。2年次の最後には部員が各所属校で授業公開を行い、広く研修の成果を発表する。

## 2 東京教師道場の取り組み

東京教師道場では2年間の取り組みを第1期【把握・点検期】・第2期【発展・充実期】・第3期【自立・完成期】に分けて研修する。所属した班では、第1期のテーマを「授業研究を通して、各自の課題を把握する」と設定した。当初、多くの部員は各単元において4技能を偏りなく扱うことが生徒の技能習得に直結すると考えていた。しかし、年間の指導においては4技能をバランスよく指導することは大切だが、各単元においては指導すべき技能をある程度絞ることにより、生徒は学習に専念できることに気付いた。第2期は、「単元を見通した授業づくり」をテーマに設定した。単元のゴールを設定したものの、毎回の授業がその授業内で完結してしまっており、連続性がないことが顕在化したためである。言語習得には時間がかかるため、単一授業のみで定着させることは難しい。そのことを踏まえ、既習事項と新出事項を行き来させながら、着実に単元のゴールに向かってステップアップしていけるような指導が大切だと考えた。そこで、単元の目標設定に重点を置き、明確なゴールを設定して、第1時から段階的な指導を行う授業づくりを目指した。第3期のテーマは「目標を見通した教材開発の工夫」とした。第2期までの実践を踏まえたうえで、新学習指導要領で重視すべき「主体的・対話的で深い学び」を実現するための教材開発が必要であると考えたからである。また、第2期の後半からは、「リーダー演習」として、部員がリーダーの役割を担って協議の司会や授業者への指導・助言を行った。東京教師道場は、他の教員を指導できる力を身に付けることが期待される「リーダー養成研修」の側面もあることを再認識した。

## 3 東京教師道場での成果

第1に、単元を見通して授業計画を立てることができるようになったことである。一つ一つの授業で内容が完結するような指導を行うのではなく、学びに連続性や継続性を

もたせるため、単元終末の生徒の姿をイメージしながら目標を焦点化し、目標の達成に必要な技能を中心に指導計画を立てるようになった。第2に、生徒が主体的・対話的で深い学びを実現できるよう、指導法の工夫をできるようになったことである。生徒が主体的に学習に取り組む姿勢を育むために、生徒自身に「何ができるようになりたいのか」を考えさせ、自らの学習到達目標をもたせるようにし、授業の終了時には自ら立てた目標に対してどのように取り組んだか、どのような学びや疑問が生まれたかなど、自らの学びを振り返らせた。また、対話的な学びについては、生徒同士が考え方の違いや英語による表現方法の違いなどを互いに伝え合い、自分では気付かなかった新たな視点や発想をもてるよう、条件を整えるのが教師の役目であることを学んだ。そのことを意識して、生徒に励ましの言葉を掛けたり、方向性を示したりするようになった。東京教師道場において、自身の授業や他の部員の授業と真剣に向き合うことができた経験は、大きな財産となった。生徒の実態によって指導方法は多種多様である。これからも、自分が指導する生徒にとって何が最適なのかを見極めながら、授業改善に向けて繰り返し挑戦し続けようと思う。

### < 参考 >

東京教師道場における協議の視点は、「授業力の6要素」に基づいて行われる。



#### 全ての教員にとって授業力の基盤となる

- ・「使命感、熱意、感性」  
…豊かな感性を身に付け、教員の職責を自覚し、困難な状況・課題に挑む姿勢
- ・「児童、生徒理解」  
…一人一人の児童・生徒を大切にしようとする愛情
- ・「統率力」  
…児童・生徒や集団をまとめ、リードする力、児童・生徒をひき付ける力

#### 授業を通して培われる

- ・「指導技術(授業展開)」  
…「分かる授業」「もっと学習したくなる授業」を実現する技能
- ・「教材解釈、教材開発」  
…教科や関連する学問等に関する深い識見
- ・「『指導と評価の計画』の作成・改善」  
…常により授業を求めていく改善の意欲

# 総務部報告

(総務部長 遠藤 哲也)

新型コロナウイルス感染症対策のため、例年は全都の地区幹事名簿を6月中に作成するところ、7月末に各地区に配布しました。また、関ブロや全英連の大会の中止により、各大会に係る用務はありませんでした。

主な年間事業は次の通りです。

## ①定期総会

総務部では都中英研各部と連絡を取り合い、総会資料を作成しました。

5月8日、各地区幹事あて、定期総会資料を配布し、6月20日までにファクシミリにて承認の確認を取りました。

## ②全英連中学校部会

全英連から求められた昨年度の活動状況と本年度の役員名簿を作成し、5月末までに提出しました。

## ③関ブロ山梨大会第1回理事研修会

中止のため、各県事務局と紙面にて情報交換をしました。

## ④関ブロ山梨大会第2回理事研修会

中止のため、各県事務局と紙面にて情報交換をしました。令和3年度茨城大会の実施方法について、オンラインにて意見交換をしました。

## ⑤全英連東京大会

中止のため、大会事務局からの情報を中英研役員に適宜伝達しました。

## ⑥第73回英語学芸大会

「3つの密」を回避するため、各地区における英語発表会は相次いで中止されました。そのため、例年通りの大会運営は困難と判断しました。代替として、各校3エントリーを上限とした動画による審査にて大会を存続しました。総務部は運営と採点に協力しました。

## ⑦令和2年度東京都教職員研修センター教育課題研究発表会

同発表会にて、展示を作成しました。

## ⑧役員会

4月20日 ※オンライン

- ・令和2年度定期総会について
- ・関ブロ、全英連大会について他

7月16日 都教職員研修センター

- ・英語スピーキングテストについて  
講師 教育庁 西貝 裕武 課長
- ・各部の事業計画見直しについて他

10月5日 都教職員研修センター

- ・英語学芸大会の運営について
- ・各部の事業報告他

2月16日 都教職員研修センター

- ・令和2年度の活動について
- ・令和3年度事業計画について他

# 事業部報告

(事業部長 横山 達也)

## 第72回 東京都中学校英語学芸大会

今年度の英語学芸大会は、新型コロナウイルス感染防止のため、インターネットを利用したビデオ審査方式で行われた。

- (1) Speaking の部 (制限時間2分)
- (2) Play の部 (制限時間5分)
- (3) Performanceの部  
(制限時間2分)

この3つの部門について、各校3つまでエントリーできることとした。(ただし、Play は1つのみ)

応募締切後、元世田谷区立梅丘中学校校長の中村貴美子先生と事業部員で審査を行い、Speaking の部では8名、Play の部では8団体を入賞とし、順位を付けた。Performance の部については、順位付けを行わなかった。

結果：

Speakingの部 A (応募数66)

- 1位 Kaga Alyssa  
(目黒区立目黒中央中学校)  
How to Be Happy in the  
New Normal
- 2位 Wada Makoto  
(武蔵野市立第一中学校)  
My Wonderful Class
- 3位 Akagi Ami  
(目黒区立第八中学校)  
What Will Life Be Like  
In Japan after Coronavirus?

特別賞 Kodama Rei  
(八丈町立富士中学校)  
From Hachijo Island

Speakingの部 B (応募数8)

- 1位 Mila Phalkato  
(目黒区立第八中学校)  
About My Interesting Book
- 2位 Kahana Aritoshi  
(世田谷区立三宿中学校)  
Bento Connects Me to the  
World
- 3位 Furuya Hanako  
(目黒区立第一中学校)  
Social Justice

特別賞 Sorkhoggani Bolor  
(渋谷区立松濤中学校)  
WHAT ARE DREAMS?

Playの部 (応募数11)

- 1位 板橋区立高島第一中学校  
Nana and Anna
- 2位 清瀬市立清瀬中学校  
Princess Kaguya
- 2位 板橋区立西台中学校  
Feel the Ocean

Performanceの部 (応募数22)

今年度は、オンライン開催という初めての試みで、どれくらいの応募があるか不安もあった。最終的には107という多数のエントリーをいただいた。

短い制限時間にもかかわらず、生徒の英語によるパフォーマンスを高めるために協力してくださった方々に、深く感謝の意を表したい。

なお、紙面の都合により、入賞者・入賞校のすべてを掲載できなかったことについてお詫びしたい。都中英研のホームページには、入賞者・入賞校を含めた結果がアップされているので、そちらをご覧ください。

# 調査部報告

(調査部長 荒川 高広)

## 1 新コミュニケーションテスト報告

2020年度の実施状況は以下のとおりである。コロナ禍で実施時間の確保が難しかったことを鑑みると、参加いただいた学校にはあらためて御礼を申し上げたい。

第1学年 660人  
第2学年 1,057人  
第3学年 974人  
総計 2,691人 (2019年度は4,793人)

各学年の領域別結果は以下のとおり。

<第1学年\*> (4年間の経年変化)

\*「聞くこと」の領域のみ。30点満点

2020年度	2019年度	2018年度	2017年度
24.4	25.2	25.2	24.8

<第2学年>

	文法	聞くこと	書くこと	読むこと
配点	30	20	30	20
平均点	22.1	12.4	19.1	16.2
達成率%	73.8	61.9	63.8	80.8

<第3学年>

	文法	聞くこと	書くこと	読むこと
配点	30	20	30	20
平均点	22.6	13.7	17.6	12.7
達成率%	75.5	68.5	58.6	63.4

## 2 2、3年生「書くこと」採点について

今回「書くこと」の問題、大問6の採点に際し、まず「問われていること」についての回答がなされているかを大前提とし、それを踏まえた上で、さらに3観点(「ア 条件」「イ 文法・綴り・表記」「ウ 構成」)を総合的に算出するルーブリックを作成した。

この大問で「問われていること」の核心は、2年生は「自分がよくやること」、3年生は「ホームステイ先で海か山のどちらに行きたいか」である。ルーブリックの第1段階で、まず問いに対する回答の有無を

確認し、問いへの回答と判断できる1文があれば点数を与えた。また、回答がなければそこで採点終了とした。

次にルーブリック第2段階である。1つ目の観点「ア 条件」については、リード文の指示(3文で書く、聞き手への質問は書かないなど)に従っているかを判定した。2つ目の観点「イ 文法・綴り・表記」については、英文の形式に関する部分に注目し正誤を判定した。あくまでも「その誤りがコミュニケーションに影響を及ぼすほどの致命的なものかどうか」という視点で判断し、そのため「誤りがあっても十分伝わる・通じるもの」「誤りのせいで誤解を招きかねないもの」「まったく意図が読み取れないもの」などと段階を設けて採点している。

3つ目の観点「ウ 構成」については、問われていることへの回答となる1文と、それを支える根拠や具体例を示す文とのつながりが見られるかで判断した。

## 3 今後に向けて

今回ルーブリック第2段階の観点について、「ア 条件」「イ 文法・綴り・表記」「ウ 構成」の3つを設けた。その中で「イ」のようなAccuracyに関わる観点があれば、生徒が慎重になるがゆえ文がやや単調だったり最小限の長さにとどまったりする可能性がある。一方で、もし生徒の独創性や豊かな発想(Originality, Creativity)を見たいときや、表現の豊かさ、多様性(Variety, Complexity)を見たいとき、あるいは量的な豊富さ(Fluency, Amount)を見たいときなど、教員が目指してきたことによって当然観点は変わり、そうした指導目標と評価の観点・基準を生徒に事前に示すことも必要になってくる。新学習指導要領も見据えた上で、「調査部」のコミュニケーションテストとしてどのような目標を立て、それに見合った観点、ルーブリックを設計するか、さらなる検討を重ねていきたい。

# 研究部報告

(研究部長 伊地知 義信)

## 1 研究主題と概要

研究テーマ：研究部基本語い1200と  
語い指導再考(3)

昨年度に引き続き、「語いリスト」と「語い指導」との2つの分科会で研究を行った。

今年は本研究テーマ3カ年計画の最終年と位置づけた。

## 2 研究部会

40年間、毎月研究部会を行ってきたが、コロナ禍で部会も思うように開催できず、メールによる意見・情報交換とzoomによるオンラインミーティングを行った。

**第1回部会** 5月14日 15:30～  
(オンライン)

本年度、最初の顔合わせとなった。新しく部員も入ったので、自己紹介を行い、各自治体の様子、各学校の様子を共有した。全英連東京大会が中止となったことを報告。研究部が毎年行ってきた夏期ワークショップもやむなく中止、休校などで日頃の研究もままならないため、2月の研究発表会と公開授業の中止も決定した。

しかし、今年何もしないわけではなく、学校が再開されたら、研究も継続し、データ収集などに例年よりも長い期間かけるイメージで活動していくことを確認した。

また、2月、3月などに途中経過でもWeb上で公開することも議題にあがった。

**第2回部会** 9月28日 15:30～  
(オンライン)

9月28日にオンラインミーティングを行った。新組織の確認、昨年度の研究発表会の反省、そして、全英連と研究部のWebによる発表について意見交換した。今後の方向性についても話し合い、全英連に向けて3カ年計画で研究を行ってきたことを踏まえ、今行っている研究テーマは2月で一度区切りをつけ、新しく研究テーマを決めて行くことに決定した。

語い指導分科会については、全体会のほかに、10月、11月とオンラインによる分科会を行った。

## 3 研究発表について(Web)

3カ年計画で研究してきたまとめを全英連のHP上で発表する準備をしている。

昨年度からさらに進めた研究部としての経過を研究部のHP上で発表する準備をしている。

## プロジェクトチーム部報告

(プロジェクトチーム部長 佐藤 順一)

これまでPT部ではCAN-DOリストの活用について研究を重ねてきた。新学習指導要領全面実施にあたり、これまでの活動を生かしつつ主体的・対話的で深い学びの視点から「指導と評価の一体化」について研究に取り組んでいくこととなった。今年度は「4技能5領域ごとの評価基準の考え方を踏まえた評価基準の作成」から具体的な学習評価の進め方について研究を進めていった。研究推進にあたり、国立教育政策研究所「指導と評価の一体化のための学習評価に関する参考資料」にある単元に応じた学習評価についての事例を参考とした。例年、研修会を年2回実施している。1回目は夏季休業中にワークショップの形式でPT部員の実践報告をした後、講師の先生をお招きして研究テーマに沿ったご講義をいただいている。2回目は、PT部員による研究授業を行い、講師の先生から助言をいただいていたが今回は実現することはできなかった。今年度については4技能5領域ごとの評価基準の考え方を踏まえ、一単元で一領域(ライティング)に特化した評価基準の作成を行った。まずは部内でビデオによる授業研究を行い、研究内容を共有していく予定である。

### 第1回 部会

日時：令和2年8月18日(火)  
場所：豊島区立明豊中学校  
内容：今年度の研究テーマ  
研究の方向性や活動予定の確認

### 第2回 部会

日時、場所：未定  
内容：ビデオによる授業研究  
(墨田区立両国中学校 西田 桐 教諭)

## 出版部報告

(出版部長 今本 由美子)

出版部では、主に「都中英研だより」と「中英研会報」の作成・発行を担当している。今年度は、感染症対策から、部員が一堂に会することが困難であったため、SNSなどを活用し、活動を進めてきた。また、年度当初より、部員相互で臨時休業中の学習課題や、学校再開時の授業の工夫等の情報交換を行い、自己研鑽に努めた。

具体的な活動状況は以下のとおりである。

### ○「都中英研だより」第74号

(令和2年10月30日発行)

様々な研修が中止、規模縮小等となる中、来年度に迫った次期学習指導要領全面実施に向けた準備に役立つ情報発信となるよう、「中学校における「話すこと」の指導の充実に向けて」の他、文部科学省、公益社団法人日本英語検定協会の動画サイトの紹介、また、形式を変更して行う「令和2年度・第73回英語学芸大会案内」を掲載した。

### ○「令和2年度 中英研会報」第79号

(令和3年3月1日発行予定)

都中英研の年間活動や英語教育活動のまとめとして、「新しい日常」を意識して、「新学習指導要領の確実な実施のための指導と評価の一体化」、「コミュニケーション活動を取り入れる前に」、「東京都教育委員会の取組」、「東京都教職員研修センターにおける外国語(英語)に関する研修について」、「今、小・中学校の英語教育に求められるもの」、また、英語学芸大会報告、実践研究、各地区の活動状況、中英研事業報告、各部活動報告等を掲載する予定である。

## 全国英語教育研究団体連合会

全国英語教育研究大会 東京大会

全英連 副会長兼 中学部会長 難波 浩明  
(足立区立第十四中学校)

### 1 全英連とは

全英連とは、英語教育研究団体、及び英語教育研究者との連絡を密にし、英語教育の振興を図り、以て文化の向上と発展に寄与することを目的とした、全国の中学校・高等学校の英語教員約6万人を会員とする英語教育研究団体である。

本会は、事業を執行するために、事務局、総務部、庶務部、経理部、広報部、中学部会、高校部会、必要に応じて、中高合同プロジェクトを設けている。また、年1回総会及び研究大会を開催するとともに、毎年1回以上役員を加え、理事会を開き、原則として、隔月1回常任理事を加え役員会を実施している。

中学部会では、毎年、調査部において、全国の理事者を対象に、英語教育についてのアンケートを行い、その結果をまとめるとともに、夏の全国理事会において、各都道府県の中学校の代表の方々との情報交換を行っている。

また、同日、理事だけでなく一般の先生方の参加も募った研修会を実施し、昨年度については、文部科学省初等中等教育局教育課程課の山田誠志調査官を講師としてお迎えし、研修会を実施した。

全国大会については、小学校、中学校、高等学校等で英語教育に関係する方々を対象に、年1度2日間に渡って開催する研究大会となっている。1日目は、総会に続いて基調講演があり、さらに、舞台上で中高ごとに授業実演を行っている。2日目には、分科会ごとに分かれ、発表や意見交換を行っている。

全国大会の歴史は古く、昭和26年に開催されて以降、毎年都道府県ごとに会場を移して実施しており、東京大会については、現在は7年に1回の実施となっている。

### 2 全英連東京大会の中止について

令和2年11月21日(土)、22日(日)に実施を予定していた第70回全国英語教育研究団体連合会総会及び全国英語教育研究大会(東京大会)は、新型コロナウイルス感染症拡大防止を受け、中止となった。1年後の延期についての検討も行ったが、数年先までのローテーションがすでに決まっており、各地で準備が進められていることから、延期ではなく、中止の決定となった。

一方で、全英連東京大会のレガシーの継承のため、全英連ホームページ上に、研究内容を一部掲載し公開することになった。

### 3 全英連東京大会レガシー継承 発表者

①小学校の学びを生かし、長期的視野に  
立ったこれからの中学校の授業づくり  
<発表者>

連雀学園三鷹市立第一中学校  
田中 佳奈 先生

②「語い」指導の充実を目指して  
～生徒がやりとりで使用する語いの  
実態調査と語いの指導法の検証～  
<発表者>

東京都中学校英語教育研究会 研究部  
研究担当副部長 前田 宏美 先生  
語いリスト部会 高杉 達也 先生  
語い指導部会 太田 裕也 先生

③教室から世界を見る  
～マララさん、サダコさん、  
そして教室のpeaceへ～  
<発表者>

江東区立深川第四中学校  
柏村 みね子 先生  
清水 優廷 先生  
魚本 大地 先生

④効果的な小中のつながりを意識した  
系統的な指導  
～英語によるコミュニケーション能力  
の育成～  
<発表者>

杉並区立杉並和泉学園  
工藤 信輝 先生  
竹内 淑香 先生

## 千代田区

神田一橋中学校では、ICTとユニバーサルデザインを取入れた授業をすることにより、多様化する社会で生徒の生きる力を身に付け、「分かった」「できた」を実感できる授業を目指して取組んだ。スピーチでは、個々の発音定着を図るためにALTに生徒一人一人の原稿を範読した音声を録音してもらい、一人一台のタブレットを使い、音声を聞かせ練習をさせた。パフォーマンステストでは、既習文法を使った会話をALTと一対一で行うことにより、学習内容の「分かった」からテストでの「会話ができた」へ繋げた。

(神田一橋中学校教諭 武井あさひ 記)

麹町中学校では、次の指導要領の指導に向けて、話すこと〔やりとり〕に関して、指導を重ね、即興で会話をする力を養うことに取り組んだ。1年の授業では、卒業時いろいろな内容で会話ができるよう、即興で自分の思いや考えを述べたり、相手に関連する質問をしたり、聞いたことに反応したりする活動を繰り返し、パフォーマンステストを行っている。間違いのある英語が多くみられるが、内容を思考し、話そうとする意欲が高まっている。

(麹町中学校主幹教諭 駒澤正人 記)

九段中等教育学校では、4月・5月の休校期間中に、①新学習指導要領に合わせたKUDAN CAN-DOリストの修正、②新学習指導要領の読み合わせ、③新3観点の学習評価の研修、④授業研究、⑤入試問題の分析などをオンラインで行った。本年度を、来年度からの新学習指導要領に沿った指導や評価を行うための準備期間として位置付け、各学年で取り組んだ。業務で忙しくなったり、顔を合わせて話し合いができにくい状況になったりしたため、6月以降は思うように研修や情報交換ができなかった。

(九段中等教育学校主任教諭 本多敏幸 記)

## 中央区

### I. 研究主題

「ICTを効果的に活用した指導の工夫  
～新学習指導要領に向けて」

### II. 研究の経過

◇4月→中止

組織作り・研究主題決定・  
年間活動計画作成

◇6月→中止

中央還元研修・スピーキングテスト検討  
ALTのスピーキングテストの実践の紹介

◇9月9日

組織作り・研究主題決定・  
年間活動計画作成

◇10月14日 講演会→中止

◇11月11日 第2学年研究授業

授業内容：New Crown 2

Lesson 7 Presentation

授業者：荒巻 紫 教諭(日本橋中)

講師：東京都教育庁指導部

指導企画課

国際教育推進担当

指導主事 関谷 さやか 先生

◇10月上旬～12月中旬

スピーキングテスト実施→中止

◇1月20日・今年度のまとめ

・新学習指導要領について

(晴海中学校主幹教諭 大沼俊太郎 記)

## I. 研究主題

「新学習指導要領に基づく指導と評価」

## II. 研究の経過

◇7月1日 組織編制、年間計画立案

◇9月9日 研修会、講演・講義

「新学習指導要領に基づいた  
評価について」

講 師：工藤 洋路 氏  
(玉川大学 教授)

◇11月4日 区英語発表会→中止

授業研究及び講演・講義

①授業者1：檜原 美紀 教諭  
(高陵中学校)

授業者2：石川 圭 主任教諭  
(高陵中学校)

## ②授業内容

授 業 1：第1学年COLUMBUS 21  
BOOK1 Unit 8  
Band Practice Part 2  
Try It!

授 業 2：第1学年COLUMBUS 21  
BOOK1 Unit7 Cheer Up,  
Tina!  
研究部のテーマに基づく  
授業  
実践と協議

## ③指導・講評

「新学習指導要領に基づく指導と評価」

講 師：工藤 洋路 氏  
(玉川大学 教授)

◇1月13日 研究のまとめ、次年度引継

- ・次年度の研究部会運営方針の確認
- ・中学校教科書採択について
- ・研究集録「ひびき」原稿の確認

◇2月3日 幼少中合同研究発表会  
→中止

(三田中学校主任教諭 丸山篤広 記)

## I. 研究主題

「新学習指導要領の全面実施に向けた指  
導と授業改善」

①主体的・対話的で深い学びの実践

②具体的なコミュニケーションの目的  
や場面、状況を設定し、その中でや  
りとりを行うことを目指した指導

③小・中の連携を深めた連続性のある  
指導

## II. 研究の経過

◇5月14日 春季一斉部会

組織作り、研究テーマと活動計画決定

◇第一回研究授業→中止

◇夏季一斉部会→中止

◇8月7日

第36回新宿区中学校英語学芸発表会  
スピーチの部・プレイの部→中止

◇10月7日 秋季一斉部会

①新しい生活様式に対応した授業実践  
共有

・新しい生活様式に対応してどのように  
授業を行っているか、またオンライン  
授業や動画配信などのICTの活用に  
ついて情報交換を行った。

②講 義：新学習指導要領の全面実施に  
向けた指導と授業改善

講 師：元牛込第三中学校 校長  
英語教育アドバイザー  
竹田 秋人 先生

◇第二回研究授業→中止

◇第三回研究授業→中止

(牛込第二中学校教諭 佐藤光正 記)

## 文 京 区

### I. 研究主題

「新学習指導要領をふまえた学習評価の  
在り方（指導と評価の一体化）」

### II. 研究の経過

- ◇5月7日 一斉教科部会→中止
- ◇7月2日（臨時部長・副部長会議）  
副部長、都中英研幹事の選出、  
研究テーマ、研究授業者の決定
- ◇1月20日 一斉教科部会 → 中止

※新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、  
予定されていた、一斉教科部会（5月  
/1月）および、研究授業、研修会、東  
京都中学校英語教育研究会の行事、全国  
大会への参加は中止となった。

（本郷台中学校主任教諭 溪内明 記）

## 台 東 区

### I. 研究主題

「新学習指導要領全面実施における課題  
と実践」

### II. 研究の経過

- ◇10月7日 区中研一斉部会
  - ・組織づくり、研究主題の決定等
- ◇1月13日 授業研究
  - ・ALTによる模擬授業、教材の共有化  
授業者：Michael Youn  
（ボーダーリンク(株)）  
単元名：NEW CROWN 3 Project 3  
「ディスカッションをしよう」  
を予定していたが中止。
- ◇2月3日 研修会
  - ・改訂版の教科書について  
株式会社三省堂より
  - ・英語科の評価について  
講師：招 聘  
を予定していたが中止。
- ◇その他  
英語学芸会  
研究授業と研究協議会は実施せず。  
参加者：岸 卓郎 教諭（浅草中学校）  
（御徒町台東中学校副校長 浦田哲男 記）

## 墨 田 区

### I. 研究主題

「話すこと」の指導と評価の工夫  
～新学習指導要領全面实施に向けて

### II. 研究の経過

- ◇5月18日 区中研一斉部会 → 中止  
(各校代表者一名ずつ参加の担当者部会  
に変更)
- ①組織作り
  - ②研究テーマ
  - ③年間活動計画の検討
- ◇7月1日 区中研英語部会研究授業  
→ 中止
- ◇8月20日 区中研英語部会夏季研修
- ①「話すこと」に関わる講義及びワーク  
ショップ等  
講 師：大林 泰代 主任教諭  
(本所中学校)
  - ②ICT活用事例研究実践紹介  
講 師：佐々木 伸 主任教諭  
(桜堤中学校)
  - ③中学生海外派遣報告  
報告者：小林 順子 主任教諭  
(墨田中学校)
  - ④学習評価の改善について  
講 師：佐藤 順一 校長  
(吾嬭立花中学校)
  - ⑤教科書採択について
- ◇11月25日 区中研英語部会研究授業
- ①授業者：川合 麻里 主任教諭  
藤本 真弓美 教諭  
(寺島中学校)  
単元名：1年Unit6 My Older  
Brother in Australia
  - ②教科書採択について
- ◇2月10日 区中研研究発表会→ 中止  
(各校の会場を活用したりリモートによる  
講演会に変更)  
会 場：各校  
(文花中学校教諭 本田耕大 記)

## 江 東 区

### I. 研究主題

「思考力・判断力・表現力等を育成する  
活動の工夫～新学習指導要領を踏まえ  
て～」(仮)

### II. 研究の経過 (10月まですべて未実施)

- ◇7月 研究テーマと組織の決定
- ◇9月 区英語部役員会
- ◇10月 教科交流研究授業の日
- ◇1月 区英語部役員会
- ◇2月 区中研一斉部会、  
区中研研修会 (日程は後日)
- ### III. コロナ禍における取り組み
- ◇臨時休業期間の学習における取組
- ・スタディサプリの活用
  - ・eライブラリの活用
  - ・オンライン環境の整っていない  
家庭に対する支援
- ①タブレットの個別貸し出し
  - ②Wi-Fiルーターの個別貸し出し
- ・ズームを活用したオンライン授業  
(第二大島中学校主任教諭 白井宏次 記)

## 品川区

### I. 研究主題

「小中連携による英語教育の推進」

### II. 研究の経過

◇7月1日 研究テーマ、組織決定

◇9月2日 一斉部会→中止

◇10月14日 オンライン講演

講師：アレン 玉井 光江 先生

(青山学院大学教授)

内容：「教科化となった外国語教育について」

◇11月11日

講師：太田 洋 先生

(東京家政大学教授)

内容：「新学習指導要領と新しい中学校教科書について」

◇12月2日 一斉部会

内容：小中の授業（録画）を見て分科会

◇1月13日 オンライン講演

オンライン講演

講師：アレン 玉井 光江 先生

(青山学院大学教授)

内容：「教科化となった外国語教育について」

◇2月10日 研究発表会

講師：阿野 幸一 先生

(文教大学教授)

内容：これからの英語教育について（仮題）

(鈴ヶ森中学校主任教諭 太田裕也 記)

## 目黒区

### I. 研究主題

「指導と評価の一体化（評価の4観点から3観点への移行について）」

### II. 研究の経過

◇4月15日 一斉部会→中止

◇7月1日 一斉部会→中止

◇10月7日 一斉部会 ZOOMにて実施

研究主題、研究計画

組織決定、スピーチテストの実施について、情報交換

◇12月2日 研修会 ZOOMにて実施

研修：「新学習指導要領の3観点について」

講師：東京家政大学 太田 洋 教授

◇1月13日 ZOOMにて研究授業

授業者：岡崎 伸一 教諭 東山中学校

講師：瀧沢 広人 准教授 岐阜大学

指導と評価の一体化について研修会

新学習指導要領の3観点から検証

### III. コロナ禍における取組

◇研修会はすべてZOOMにて各校から参加して実施

◇スピーチコンテストは各校で録画したものを各校で採点

◇研究授業は録画したものをZOOMにて視聴し、協議会を実施

(第一中学校主任教諭 小林覚 記)

## 大 田 区

### I. 研究主題

「小学校の既習表現を活用した、発展的な言語活動」（2年目）

### II. 研究の経過

- ◇ 4月15日に予定していた第一回部会（会場：雪谷中）は、中止とした。  
組織編成、年間計画立案、部員名簿作成等は学校間メールを介して行い、全部員に周知した。
- ◇ 7月11日に予定していた第一回研究授業は、中止とした。
- ◇ 11月6日に予定していた連合学芸会（英語の部）は、中止とした。
- ◇ 2月3日に予定していた研究授業は、中止とした。  
研究授業後の第2回部会は、（12月末現在）実施予定。
  - ・次年度から使用する教科書の出版社から編集担当者をお招きし、講演会形式で編集の意図や工夫、苦労話等をしていただく。
  - ・今年度の総括、情報提供等。
- ◇ BULLETIN -OTA English Today-（紀要）を年間の研究記録として毎年発行しているが今年度に限り発行を見送る。  
次号は第31号となる。

### III. 今年度の部員数：105名

（雪が谷中学校校長 和田史宏 記）

## 世 田 谷 区

### I. 研究主題

「次期学習指導要領を見据えた指導の工夫」

### II. 研究の課程

- ◇ 5月13日 世田谷区立中学校教育研究会  
総会・一斉部会→中止
- ◇ 6月3日 前期教育研究会→中止
- ◇ 夏期研修会→中止
- ◇ 11月4日 後期教育研究会  
第31回世田谷区立中学校英語スピーチコンテスト  
※事前にビデオ撮影されたスピーチを審査
- ◇ 12月11日 授業研究会（梅丘中学校）  
テーマ：次期学習指導要領を踏まえた若手教員の指導の工夫  
授業者：華頂 泰佑 教諭  
指導者：杉本 薫 先生  
（元 東京都立両国高等学校附属中学校）
- ◇ 3学期 授業研究会（予定）  
テーマ：次期学習指導要領を踏まえたベテラン教員向け指導の工夫  
授業者：未定  
指導者：杉本 薫 先生  
（元 東京都立両国高等学校附属中学校）  
（瀬田中学校主任教諭 関根貴子 記）

## 渋谷区

### I. 研究主題

- ・ICT機器を活用したオンライン授業
- ・小中連携の実態把握
- ・授業力向上のための各学校の取り組みの把握

### II. 研究の経過

#### ◇タブレット端末を活用した双方向のオンライン授業

- ・Microsoft Teamsを使用したオンラインでのチャットやディスカッションの活動
- ・Microsoft Formsを使用した授業内アンケートやクイズの実施
- ・Microsoft Swayを使用した英文ニュースレターの配信及び生徒相互評価
- ・動画撮影機能を使用した生徒の「外国語表現の能力」の評価
- ・動画編集アプリを使用した英語発表活動
- ・スタディサプリやミライシード（オクリンク、ドリルパーク）を使用した学習活動

#### ◇渋谷オンラインスタディ

- ・「ABEMA」のインターネット テレビ&ビデオサービスを活用し、渋谷区の教員による学習動画の配信

### III. まとめ

今年度は新型コロナウイルス感染症対策のため、自宅でのオンライン学習環境下における指導方法について各校研究を行った。その中で渋谷区が導入しているタブレット端末の活用により、教室外の環境においても学びの機会を保障することができた。今後はこの知見を活かしてより効果的な指導方法の研究を継続して行っていく。

(松濤中学校教諭 石井誠 記)

## 中野区

### I. 研究主題

「主体的・対話的で深い学びを実現する授業の工夫～オンラインにより教材開発を通して～」

### II. 本年度研究実績

◇研究主題の検討と決定（8月）

◇研究授業の企画（8～10月）

- ・録画による提案授業の発表および協議会

授業者：丸山 凌侑 教諭

内容：「主体的・対話的で深い学び」を踏まえて、ICT機器を活用した授業改善

◇英語学会の企画・実施（本年度中止）

◇紀要作成（11～12月）

◇研究発表会及び講演会の企画・実施（2月）

講師：文部科学省初等中等教育局

教育課程課 情報教育・外国語教育課教科調査官

山田 誠志 先生

内容：「新学習指導要領の趣旨を踏まえた授業改善と学習評価」

### III. まとめ

今年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、区内で臨時休校の措置が取られたことで、学力保障の観点からICTを活用した自宅学習教材の作成や開発もする必要に迫られた。また、GIGAスクール構想における教育のICT化が進む中で、生徒各自に配布されるタブレットを十分に活用した指導法の改善も大きな課題である。

こうした状況の中で、Google Meetを利用した研修ではあったが、ICT機器やオンライン学習コンテンツ等を各校でどのように活用しているのかについて情報交換をすることができた。また、「主体的・対話的で深い学びを実現する授業の工夫」としての提案授業の様子を録画し、視聴してから協議することで、新学習指導要領導入に向けて、新たな学び方について研究を深めることができた。

(第二中学校主任教諭 榎野真弓 記)

## 杉 並 区

今年度の活動は中止となったが、各校では感染症対策を講じながら学習指導要領の実現に向けて工夫された取組が展開された。

### I. 授業公開のテーマ等

「主体的・対話的で深い学びの実現に向け、生徒の思考力・判断力・表現力等を育てる授業の実践～学びの構造転換の視点から～」

◇授業者：和田中学校 阿部 秀行 教諭

◇授業日：令和2年11月25日（水）

◇単元名：New Horizon English  
Course1

Unit7 ブラジルから来たサッカーコーチ

### II. 生徒の表現例

<昼に何を食いたいかという状況で>

生徒A：Which do you like

(食べ物名1), or (食べ物名2)?

生徒B：I like (食べ物名1).

生徒A：Me, too. Let's go to

(食べ物名1があるコンビニ店名).

生徒B：OK!

### III. 授業の成果

生徒はペアになり、小学校で培った英語の経験を生かしながら柔軟な発想で会話をつくることができた。さらに、それぞれのアイデアをクラス全体で共有することにより、生徒一人一人が、友達の表現にある、自身が気付かなかった発想に気づき、共感していた。自身の学びの振り返りの時間を確保していくことで、英語の表現力とともに「学びに向かう力」が高まっていく授業であった。

(向陽中学校校長 中谷愛 記)

## 豊 島 区

### I. 研究主題

「新型コロナウイルス感染症防止における授業のあり方」

### II. 研究の経過

◇4月15日 区中研一斉部会→中止

◇7月14日 区中研 部長・主査会  
(池袋中)

◇4月11日 区中研英語部会

「オンラインにて各校の取組の情報交換」  
→中止

◇1月13日 区中研英語部会

「オンラインにて資料作りについて集約」

### III. コロナ禍における取組

◇区から生徒一人一人貸し出しされたク  
ロームブックの活用→授業時での使用、  
課題や動画の配信

(西巣鴨中学校主任教諭 福島恵子 記)

## 北

## 区

## I. 研究主題

「実践的コミュニケーション能力の向上  
を目指した授業の工夫」

## II. 研究の経過

◇9月9日 北区教育研究会英語・外国語  
活動研究部中学校分科会

内 容：組織作り、研究目標、活動計画

◇11月6日 連合英語学会

(英語スピーチの部)

場 所：北区立滝野川会館

参加者：10校10名

最優秀生徒(桐ヶ丘中3年)

東京都英語学会大会に参加

◇11月18日 中学校研究授業

授業者：坂田 恵子 主任教諭

(滝野川紅葉中学校)

対 象：中学校2年

単 元：NEW HORIZON English

Course 2

Unit 5 “Universal Design”

講 評：北区教育委員会教育振興部

教育指導課

北区外国語教育アドバイザー

坂下 孝憲 氏

◇1月13日 北区英語科教員研修会

講 演：「新学習指導要領にもとづく  
指導と評価について」

講 師：文部科学省初等中等教育局

情報教育・外国語教育課

外国語推進室教科調査官

山田 誠志 氏

(赤羽岩淵中学校教諭 小橋歩実 記)

## 荒

## 川

## 区

## I. 研究主題

「積極的にコミュニケーションを図ろう  
とする態度の育成」

～世界に広がる荒川の英語教育～

## II. 研究の経過

◇8月26日 組織作り、研究主題決定  
研究授業及び会議の開催

方法の協議・確認

◇9月16日 研修会 各校

内 容：「積極的にコミュニケーション

を図ろうとする態度を育成する

ために、小学校との接続にあたり

中学校1年生の指導で工夫し

ていること」

◇11月11日 研究授業 第七中学校

授業者：石渡 久恵 教諭

対 象：中学1年生

単 元：New Crown 1

Lesson 6 My Family

※授業は事前にビデオで撮影

①録画視聴後、授業者から解説

②質疑応答等の研究協議

◇1月15日 小中合同部会

研究授業：第四峡田小学校

授業者業：花岡 里美 指導教諭

内 容：「自分の思いや考えを伝え  
ようとする児童の育成」

講 師：聖学院大学人文学部

准教授 東 仁美 先生

(諏訪台中学校教諭 中三川友紀 記)

## 板 橋 区

### I. 研究主題

「新学習指導要領に向けて  
～増える語彙の対応を視野に、語彙指  
導の充実と工夫～」

### II. 研究の経過

◇4月15日 区中研一斉部会→中止

◇6月 研究授業→中止

◇8月20日 夏季ワークショップ

場 所：板橋第二中

講 師：東京家政大学教授

太田 洋 先生

講 演：「新しい観点での評価方法」

◇11月5日 「英語のつどい」→中止

◇11月27日 研究授業

場 所：志村第三中

授業者：徳田 伸明 教諭

講 評：千代田区立九段中等高等学校  
指導教諭 本多 敏幸 先生

◇1月 研究授業→中止

◇2月4日 区中研教職員研究発表会  
→中止

収録原稿執筆校

①板橋第二中

②志村第二中

③中台中

④赤塚第一中

(高島第二中主幹教諭 永原佳代子 記)

## 練 馬 区

### I. 研究主題

「基礎・基本の定着を図り、コミュニ  
ケーション能力の基礎を培う。また、  
令和3年度からの次期学習指導要領の  
全面実施に向けて、主体的・対話的で  
深い学びの実現をめざし、生徒の思考  
力・判断力・表現力を育てる授業を実  
践する。」

### II. 研究の経過

◇5月13日 区中研一斉部会→中止

◇6月10日 各ブロック研究授業→中止

◇8月19日・20日 夏期研修会

練馬区立区民・産業プラザCoconeriにて

\*「学習指導要領完全実施に向けた、授  
業の具体化や指導と評価の一体化」  
～主体的・対話的で深い学びの実現を  
めざし、「知識及び技能」「思考力・  
判断力・表現力」「学びに向かう力、  
人間性等」をバランスよく育成する授  
業を実践する①～

講 師：吉田 研作 先生

(上智大学特別招聘教授

・言語教育研究センター長)

\*「学習指導要領完全実施に向けた、授  
業の具体化や指導と評価の一体化」  
～主体的・対話的で深い学びの実現を  
めざし、「知識及び技能」「思考力・  
判断力・表現力」「学びに向かう力、  
人間性等」をバランスよく育成する授  
業を実践する②～

講 師：山田 誠志 先生

(国立教育政策研究所教育課程  
研究センター 教育課程調査官)

◇10月3日 英語学芸会→中止

◇11月4日 区中研研究授業→中止

◇2月3日 区中研英語部研究発表会

\*「来年度の新教科書についての  
研修会」

講 師：光村図書出版 英語課編集長  
(光が丘第三中学校教諭 相澤雄介 記)

## 足 立 区

### I. 研究主題

「足立スタンダードを活用した授業づくりを目指して～新学習指導要領に沿った評価方法～」

### II. 研究の経過

◇4月15日 一斉部会→中止

◇6月10日 役員会→中止

◇7月14日 講演会

講 師：文部科学省 初等中等教育局  
教科調査官

山田 誠志 先生

主 題：「新しい観点における  
学習評価から指導を考える  
～表現の領域（補足）及び  
理解の領域について～」

◇9月16日 小中合同研修会→中止

◇10月14日 小中合同研修会  
→中学校研修会に変更  
ZOOMによる講演会

講 師：東海大学教授  
長沼 君主 先生

主 題：「評価を意識した授業づくり」

◇10月22日 連合英語学会→中止

◇12月9日 授業研究会→中止

◇1月27日 一斉部会・講演会

講 師：文部科学省 初等中等教育局  
教科調査官

山田 誠志 先生

主 題：「新学習指導要領全面実施に  
向け、今備えたいこと」

（第五中学校主任教諭 上尾栄美子 記）

## 葛 飾 区

### I. 研究主題

「思考力・判断力・表現力」を育む段階的な指導の工夫

### II. 研究の経過

◇4月3日 ALT導入全校説明会、  
割当調整会議

◇5月13日 葛中研全員部会→中止

◇10月20日 講演会

主 題：「新学習指導要領における  
『話すこと』の指導と評価の  
一体化について」

内 容（1）東京都中学校英語スピー  
キングテスト事業について（概  
要）

（2）「『話すこと』に関する能  
力育成のための映像資料・指  
導資料」を活用した指導につ  
いて

講 師：関谷 さやか 様  
（東京都教育庁指導部指導企画課  
国際教育推進担当）

◇11月7日 第35回葛飾区立中学校英語  
スピーチコンテスト  
（於 葛飾区総合教育センター）

※例年は暗唱、プレイ、スピーチ1、ス  
ピーチ2の部門があるが、今年度はス  
ピーチ部門のみ実施し、24名の生徒  
が参加した。感染症対策を行い、6人  
を1グループとして時差召集し、分散  
して実施した。

◇11月11日 葛中研一斉部会

講演会：主題「新教科書の編集方針及び  
改定のポイントについて」

講 師：東京書籍 英語編集部

◇1月23日 葛飾区イングリッシュ  
キャンプ

（於：TOKYO GLOBAL GATEWAY）  
→中止

◇1月27日 冬季大会→中止

◇3月役員会（予定）

◇研究授業→中止

（立石中学校主幹教諭 河野光志 記）

## 江戸川区

### I. 研究主題

「英語を用いて主体的にコミュニケーションを図る資質・能力の育成」

### II. 研究の経過

- ◇5月13日 総会・役員会→中止
- ◇6月10日 区中研一斉部会→中止
- ◇夏季研修会→中止
- ◇2月3日 研究授業・講演会→中止  
(小岩第四中学校校長 鈴木訓文 記)

## 八王子市

### I. 研究主題

「やり取りを通して知識を深めていくための授業作り及び指導方法の改善」

### II. 活動の経過

- ◇11月4日 役員会  
主題設定、組織、  
活動計画確認
- ◇1学期 師範授業→中止
- ◇夏季研修会 スキルアップ研修会  
授業力・英語力のブラッシュアップ  
「ネイティブ講師による英語力の  
ブラッシュアップ」(演習) →中止
- ◇2学期 研究授業→中止
- ◇11月4日 一斉部会→中止
- ◇1月5日 役員会  
新教育課程について
- ◇2月15日 2・3年次研修(松が谷中)  
(第五中学校副校長 小島幸子 記)

# 立 川 市

## I. 研究主題

「主体的・対話的学びを生かした生徒の育成」

## II. 研究の経過

- ◇5月13日 運営委員会  
全体会  
研究部会→中止
- ◇8月17日 運営委員会
- ◇8月20日 研究部会→中止
- ◇10月7日 研究部会  
講 師： 西東京市教育委員会  
統括指導主事  
荒木 忍 先生  
講 演：「学習指導要領改訂のポイント  
と学習評価の充実」
- ◇2月10日 研究発表会→中止  
(立川第八中学校主幹教諭 木下泰孝 記)

# 武 蔵 野 市

## I. 研究主題

「新学習指導要領全面実施における小中連携」

## II. 研究の経過

- ◇7月8日 武蔵野教研総会・書面決議
- ◇7月～8月中旬  
活動計画・研究主題検討
- ◇10月14日 小中部会（講演）  
講 師：東 仁美 先生  
(聖学院大学教授)  
講 演「小学校教科書“Here We Go!”  
について学ぶ」  
会 場：大野田小学校・けやきホール  
※「英語科 新しい観点による学習評価について」の  
情報提供あり。
- ◇1月13日 小中部会  
講 師：工藤 洋路先生  
(玉川大学教授)  
講 演：「中学校教科書“New Crown”  
について学ぶ」  
会 場：武蔵野市立第四中学校・体育館

## III. 成果と課題

令和3年度からの新学習指導要領全面実施に向けて、採用教科書の執筆に携わった先生方を講師にお迎えしての勉強会を行った。デジタル教科書を見ながら、小学校、中学校の英語教育で、連携を深めるために必要な事柄についてワークショップ形式で意見交換も行った。

また、刀根 武史 研究部担当校長より、「新しい観点による学習評価について」も情報提供があり、指導と評価の一体化に向けて、各校で準備を進めている。

(第四中学校主幹教諭 伊藤夕香 記)

## 三 鷹 市

### I. 研究主題

「発達段階に応じたコミュニケーション能力の育成～新学習指導要領全面実施を踏まえて～」

### II. 研究の経過

- ◇4月15日 一斉部会→中止
- ◇5月13日 講演会→中止
- ◇6月10日 授業研究会→中止
- ◇9月9日 授業研究会  
→一斉部会に変更
- ◇10月7日 授業研究会→中止
- ◇1月13日 授業研究会  
→小中合同研修会に変更  
内 容：インタラックによるワーク  
          シヨップ  
テ ー マ：「教師の英語指導力  
          スキルアップ研修」  
講 師：市内配置のALT10名
- ◇2月10日 授業研究会→中止  
(第三中学校主幹教諭 坪内英津子 記)

## 青 梅 市

### I. 研究主題

「生徒が主体的・対話的で深く学ぶ力を高める指導方法と評価の工夫」

### II. 研究の経過

- ◇5月13日 中教研全体会・部会  
新型コロナウイルス感染拡大防止のため  
中止。各校で当日の資料を配布。
- ◇10月28日 一斉研究授業  
新型コロナウイルス感染拡大防止のため  
中止。
- ◇11月27日 英語科研修会  
目 的：デジタルブックの効果的な  
          活用方法  
評 価：評定の算出に関する考え方  
講 師：東京書籍 中学校英語編集長  
          榮 彰子 様  
          中学校英語編集  
          河村 稀琳 様  
場 所：青梅市立第六中学校 英語科室
- ◇12月以降の予定はなし

### III. その他

臨時休業期間にYou Tubeに教員が制作した動画をアップしたり、学校再開後にeライブラリを活用し、家庭学習ができるように学習の保証をした学校があった。

(第六中学校副校長 佐藤正和 記)

# 府 中 市

## I. 研究主題

「実践的な指導力の向上」

## II. 研究経過及び内容

◇4月15日 部員総会→中止

◇5月13日 研究部会→中止

◇7月9日 研究部会→中止

◇8月5日 研究部会→中止

◇9月9日 部員総会

部長党役員選出、研究主題・年間研究計画検討

◇10月14日 ワークショップ

「デジタル教科書を用いた指導の工夫」

講 師：日高 美桜 氏

Mohammed Razzaque 氏

◇11月11日 講義①

「新学習指導要領を見据えた指導と評価」

講 師：重松 靖 氏

◇12月9日 研究部会

資料作成・情報交換

◇1月13日 講義②→中止

「新学習指導要領改訂のポイントと評価」

講 師：早川 裕之 氏

◇2月3日 研究発表会→中止

◇3月10日 協議

「一年間の反省・まとめ」

(浅間中学校教諭 宮野和子 記)

# 昭 島 市

## I. 研究主題

「新学習指導要領を見据えた具体的な指導と評価（仮題）」

## II. 活動報告

◇4月15日 部員総会・教科部会→中止

◇5月13日 教科部会→中止

◇9月30日 教科部会→中止

◇1月13日 教科部会→中止

◇2月3日 講演会→中止

## III. コロナ禍における取組

◇授業動画の作成

各校で作成した授業動画を各校や市のホームページにアップし、生徒の学習意欲の向上や学習機会の保障に努めた。また、休校中の課題への取組方や解説の動画をアップした。

◇休校中の課題

生徒が家庭学習に取り組みやすいよう、家庭学習用の9教科の時間割を配布し、その時間に行うべき課題を提示した。課題は毎週の個別相談日に提出をさせ、生徒の学習状況を把握すると共に、個別に相談を受ける日を設定した。

(多摩辺中学校教諭 安部純平 記)

# 調 布 市

## I. 研究主題

「新学習指導要領全面実施にむけた英語科における主体的・対話的で深い学びにつながる指導の工夫」

## II. 研究の経過

- ◇5月 第1回研究部部会→中止
- ◇6月5日 研究主題案・組織作り  
研究計画案作成
- ◇6月～10月 研究部部会→中止
- ◇11月4日 研究授業・協議会・講義  
会 場：調布市立神代中学校  
授業者：國保 英知 教諭  
内 容：NEW CROWN 2 Lesson 6  
Get Part 2  
※研究授業は事前に2台の定置カメラで録画したものを、映像を見ながら授業者が解説をしながらの授業観察。授業内の言語活動を通して、生徒が主体的・対話的で深い学びにつながっているかの協議を行った。  
講 師：中谷 愛 先生  
(杉並区立向陽中学校校長)  
内 容：・新学習指導要領  
中学校外国語科 改定の概要  
・研究授業公表  
・言語活動を行う際の要点
- ◇1月 一斉部会中止→紙上発表  
(神代中学校教諭 國保英知 記)

# 町 田 市

## I. 研究主題

「次期学習指導要領を見据えた指導と評価」

## II. 研究の過程

- ◇5月14日 第一回一斉部会→中止
- ◇6月17日 第一回一斉部会  
→Google Meetにて実施  
内 容：組織作り  
研究主題の設定  
年間活動計画
- ◇10月28日 第二回一斉部会  
会 場：町田市立第二中学校  
内 容：「4観点に基づく言語活動」  
「3観点に基づく言語活動」  
についての考察と共有  
講 演：「3観点に基づく指導と評価」  
「新規採用教科書『Here We Go!』」の特色と活用について  
→Google Meetにて中継し、会場にて講演を視聴、討論を行った  
講 師：太田 洋 教授  
(東京家政大学)
- ◇1月29日 研究授業・講演  
会 場：町田市立真光寺中学校  
授業者：森沢 俊彦 教諭  
→Google Meetにて授業を中継し、会場にて協議会を行い、講話を視聴した  
講 師：日臺 滋之 教授  
(玉川大学)  
内 容：NEW HORIZON Let's Read 3  
講 演：「次期学習指導要領を見据えた指導と評価」  
(鶴川第二中学校主任教諭 北野啓太郎 記)

## 小 金 井 市

### I. 研究主題

「新学習指導要領に向けてOUTPUT  
活動の実践を目指す」

### II. 研究の経過

- ◇6月5日 第1回英語部会（会場南中）
  - ・部員紹介、年間スケジュールの確認、  
情報交換
- ◇10月15日 第2回英語部会  
会 場：東中
  - ・研究授業 第1学年  
Lesson 5 「Our New Friend」  
授業者：栄藤 辰久 教諭（東中）
  - ・研究協議
  - ・主体的・対話的で深い学びにつながる  
指導の工夫について
  - ・新学習指導要領における評価評定に  
ついて
- ◇11月4日 第3回英語部会  
会 場：二中
  - ・来年度使用の新教科書についての活用  
説明会説明者：三省堂
  - ・新学習指導要領における評価評定につ  
いて
  - ・情報交換
- ◇1月20日 第4回英語部会  
会 場：二中
  - ・授業研究 第3学年  
Lesson 7 「English for Me」  
授業者：山上 大介 主任教諭  
（二中）
  - ・研究協議  
講 師：東京学芸大学教授  
馬場 哲生 先生
- ◇2月3日 研究発表会  
（動画視聴[予定]）  
（小金井第二中学校主任教諭 山上大介 記）

## 小 平 市

### I. 研究主題

本年度は第1回英語部会を開催できな  
かったため研究主題は未設定

### II. 研究の経過

- ◇4月22日 教科等研究総会→中止
  - ◇7月 夏期研修会→中止
  - ◇9月9日 教科等研究会  
（小平第二中学校）  
講 師：重松 靖 先生  
（元都中英研会長）  
講 演：「新学習指導要領の完全実施に  
向けて」  
内 容：・改訂の背景
    - ・外国語科の目標
    - ・小学校と中学校の接続
    - ・指導計画の作成と内容の  
取り扱い
    - ・言語材料について
- （小平第三中学校主任教諭 小野瀬佳図 記）

# 日 野 市

## I. 研究主題

「Input-Intake-Outputのつながりを意識した授業デザインと実践」  
～新学習指導要領の実施に向けて～  
(昨年度からの継続主題)

## II. 研究の過程

- ◇5月13日 中教研総会：組織作り  
→中止
- ◇6月3日 研究授業→中止
- ◇7月1日 研究授業→中止
- ◇9月7日 調査研究1  
「新学習指導要領研究：指導と評価」  
講 師：東京家政大学教授  
太田 洋 先生  
国立教育政策研究所発行の参考資料を用いて、「話すこと（やりとり）」の評価の事例をワークショップ形式でご教示いただいた。
- ◇11月17日 調査研究2  
「次年度採択教科書の研究」  
次年度に採択が決まった光村図書の教科書 Here We Go! について、構成上の特色、小学校での既習事項への配慮、及びデジタル教科書の構成と使い方などについての研修を行った。
- ◇12月11日 ビデオ研究授業①  
授業者：岩澤 真綾 教諭  
(日野第二中学校)  
New Crown 2 Lesson 8  
(中学2年対象)  
“India, My Country” GET-Part1
- ◇12月11日 ビデオ研究授業②  
授業者：北川 義之  
(大坂上中学校)  
New Crown1 Lesson8  
(中学1年対象)  
“School Life in the U.S.A.”  
USE Read
- ◇臨時休業期間の学習の保障に向けた取組  
市内中学校の英語科で協力し、各学年の自宅学習向け動画を作成し、全中学校のホームページにアップして自宅学習を奨励した。  
(日野第二中学校主任教諭 佐藤真雄 記)

# 東 村 山 市

## I. 研究主題

「言語活動の充実～新学習指導要領実施にむけて～」

## II. 研究の経過

- ◇9月2日 統一部会  
(東村山第四中学校)
- ◇10月7日 新規ALT委託業者 説明会  
(東村山第五中学校)
- ◇10月29日 部長会・会計会  
(化成小学校)
- ◇11月4日 ラウンドシステム  
・研究協議  
(東村山第五中学校)
- ◇12月2日 コロナ禍での取組状況の確認 来年度に向けて  
(東村山第三中学校)
- ◇1月13日 講演会  
『新学習指導要領における評価』  
講 師：東京学芸大学  
白倉 美里 先生  
(東村山第五中学校)
- ◇2月12日 三省堂 新教科書説明  
(東村山第五中学校)
- ◇3月3日 今年度のまとめ、次年度の計画  
(東村山第五中学校)  
(東村山第五中学校教諭 川和大純 記)

## 国 分 寺 市

### I. 研究主題

「新学習指導要領をふまえた指導の工夫  
－生徒の主体的・対話的で深い学びと  
評価－」

### II. 研究の経過

- ◇4月15日 一斉部会→中止
- ◇6月3日 一斉部会
  - ・研究主題，年間活動計画の検討
  - ・教科用図書採択に向けた各校の分析結果の共有
  - ・各校の情報交換
- ◇10月7日 研究授業，講演会  
授業者：第二中学校 柳沢 萌子 教諭  
(※授業はビデオで事前に撮影)  
講 師：国士舘大学  
五十嵐 浩子 教授
- ◇1月13日 一斉部会
  - ・研究のまとめ
- ◇2月10日 研究発表会→誌上发表

### III. 成果と課題

- ・小学校で扱う事項が増えている。今後も生徒の既習事項を確認し，その上で授業を構成する。
- ・来年度以降，義務教育で扱う語彙数が更に増えるため，教員は発信語彙と受容語彙を強く意識し，それらを踏まえて授業を構成する必要がある。
- ・思考力，判断力，表現力等の育成，即ち「未知の状況にも対応できる力の育成」が求められている。即興力を伸ばすための活動を授業に取り入れるとともに，その成長を少人数指導の中で適切に見取る方法を考えていく必要がある。

(第二中学校教諭 柳沢萌子 記)

## 国 立 市

### I. 研究主題

昨年度「コミュニケーション能力の充実  
をはかるための自己表現力の育成」  
今年度は部会が開かれなかったので、研  
究主題は決めていません。

### II. 研究の経過

- 一斉部会は中止
- ◇2月17日  
学習評価に関する講演会 実施予定  
(国立第一中学校教諭 平沼修子 記)

# 福 生 市

## I. 研究主題

「新学習指導要領を踏まえた学習指導及び評価について研究する」

—見方・考え方を働かせた学びの実践を通して—

## II. 研究の経過

◇6月24日

役員選出部会

研究取組の方向性の設定

年間計画作成

◇8月25日

(午前) 福教研英語科研修会

講 師：東京都教育庁指導部

義務教育指導課 指導主事

早川 裕之 先生

(午後) 中学校英語科指導法研修会

(福生市)

講 師：立教大学

外国語教育研究センター 教授

新多 了 先生

講 師：福生市立福生第一小学校 校長

林 宣之 先生

◇10月8日

研究授業：福生第二中学校

授業者：寺沢 陽子 指導教諭

内 容：NEW CROWN ENGLISH

SERIES 1 L 5

‘Our New Friend’

講 師：福生第二中学校 副校長

市川 拓治 先生

(福生第三中学校主幹教諭 須田和也 記)

# 狛 江 市

## I. 研究主題

「対話力を重視した実践的な学びを目指して」

—新学習指導要領を機軸にした「主体的・対話的で深い学びの表現活動」実現への指導法—

## II. 研究の経過

◇4月 年間計画の作成

研究主題設定 組織作り

◇7月 運営委員会

共通研究課題、活動の確認

部長会

研究主題、研究授業校、年間活動

計画、会計事務の確認

◇1月 研究授業・協議会・研修会

会 場：狛江第二中学校

授業者：照井 直也 主任教諭

対 象：3年CD組

単 元：NEW CROWN 3

Lesson 7

English for Me

講 師：日臺 滋之 教授

(玉川大学文学部英語教育学科)

協議会・研修会内容

○コミュニケーション能力

・思考力の育成法

○新学習指導要領に基づく評価法

◇2月 研究活動報告会

## III. オンラインスピーキングトレーニング

Benesse Co. 体験型英語学習 全校実施

(狛江第三中学校主任教諭 遠堂美穂 記)

## 東 大 和 市

### I. 研究主題

検討中

### II. 研究の経過

◇一斉部会・研修会・研究授業・部会

→中止

◇臨時休業期間の学習について

→文法復習や入試単語の練習を課題にし、登校日にテストを実施した。

◇学校再開後の授業について

→話し合い活動では、グループワークでなく、ペアワークを積極的に取り入れた。また、ALTとの個別でのインタビューテストを多く実施した。スピーチも学期ごとに発表させた。

(第三中学校教諭 津野地純一 記)

## 清 瀬 市

### I. 研究主題

全体

「新学習指導要領を踏まえた、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業づくり～技能領域を焦点化した指導の工夫を通して～」

### II. 研究の経過

◇11月4日 教育研究会

会 場：清瀬第二中学校

内 容：研究主題の設定、年間活動計画の作成、情報交換

◇2月10日 授業研究会→縮小実施

授業者：齊藤 巧 教諭（清瀬中学校）

※授業はビデオで事前に撮影

①ビデオを見ながら授業者から解説

②指導目標・指導内容・評価の整合性を図る授業づくりについて協議

③主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業づくりについて協議

(清瀬第二中学校主任教諭 東井靖展 記)

## 東久留米市

### I. 研究主題

新学習指導要領における「指導と評価の一体化」のための学習評価の理解と事例研究

### II. 研究の経過

◇7月1日 市授業改善研

研究主題・情報交換

◇9月9日 研究授業

久留米中学校1年生

授業者：高橋 愛 教諭

◇10月14日 研究授業

西中学校1年生

授業者：中村 大樹 教諭

講師：東京都教職員研修センター

研修部授業力向上課

大山 明 教授

◇2月10日 市授業改善研

研究報告（紙上発表）

◇研究のまとめ

指導と評価の一体化は生徒の学習状況を適切に評価し、指導の改善に生かすために必要である。

三要素のバランスのとれた学習評価を行っていくためには、多様な活動に取り組みさせるパフォーマンス評価を取り入れ、ペーパーテストのみに頼らない多面的な評価を行っていくことが必要である。そのために、学力とは何かを学校全体で確認したうえで、従来の学力観にとらわれすぎることなく、資質・能力の3つの柱が身に付いているかを評価する規準の設定をしていく。

主体的・対話的で深い学びを実現させるためのカリキュラムマネジメントに学校全体として取り組みながら授業改善を進める。

（中央中学校主幹教諭 三田村規子 記）

## 武蔵村山市

### I. 研究主題

「新学習指導要領における評価の研究～3つの柱について考える～」

### II. 研究の経過

◇5月27日 中教研一斉部会

・研究主題設定

・組織編成

・年間計画 等

◇11月4日 第二回部会

研修会

講師：文教大学

国際学部国際理解学科

阿野 幸一 教授

テーマ：「新学習指導要領の3観点の

評価方法と新しい教科書の活用について」

◇2月10日 第三回部会

研究授業及び協議会

武蔵村山市立第四中学校1年生

授業者：北島 昇 教諭

小林 南美 教諭

菅原 将人 教諭

単元名：One World 1

Time for a Skit③

・ファスト・フード店で注文をするときの表現を用いてSkitを作り、会話する。

（第四中学校主任教諭 菅原将人 記）

# 多 摩 市

## I. 研究主題

「『指導と評価の一体化』のための学習  
評価および小学校での外国語の教科化  
に伴う中学校英語への円滑な接続」

## II. 研究の経過

◇7月1日 多摩市中教研一斉部会

場 所：多摩市立多摩中学校

内 容：研究主題と年間計画の決定

◇10月27日 小学校外国語研究授業

場 所：多摩市立永山小学校

内 容：授業観察と研究協議

授業者：吉井 高嶺 教諭

※授業はビデオで事前に撮影

◇11月4日 研究授業

場 所：多摩市立諏訪中学校

内 容：授業観察と研究協議

授業者：多摩市立諏訪中学校

加藤 駿 主任教諭

講 師：多摩市教育委員会教育指導課

指導主事 鈴木 悠平 先生

◇2月12日 研究発表会

場 所：多摩市立東愛宕中学校

内 容：市内研究指定校による

研究成果の発表

(青陵中学校主任教諭 山本良子 記)

# 稲 城 市

## I. 研究主題

「新学習指導要領を踏まえた授業づくり  
～評価の在り方について～」

学習評価の方法が変更になったため、  
各評価観点について正しく理解し、  
ゴールを明確にした授業づくりをする  
ことで、授業改善を図ることをねらい  
とする。

## II. 研究の経過

◇4月15日 一斉部会→中止

◇5月13日 一斉部会→中止

◇6月10日 一斉部会→中止

◇9月3日 役員会

→今年度の研究主題の討議

◇10月14日 一斉部会

講 師：玉川大学 教授

工藤 洋路 先生

講 演：「新しい学習指導要領における  
評価について～理論と実践」

◇1月15日 役員会→今年度のまとめ

## III. 講演後の取り組み

評価に関して新しい学習指導要領を踏ま  
えた授業づくりをした上での実践報告書  
を各校作成する。

(稲城第二中主任教諭 宮川賢治 記)

## 羽村市・西多摩

### I. 研究主題

### II. 研究の経過

今年度、5月20日付で西多摩教育研究会会長より「第一に、生徒、教職員の感染拡大防止、並びに教育計画の安定実施を最優先事項として捉え…(略)…総会、一斉部会、夏季研修、一斉教科部会研究授業…(略)…は、中止する」と通知があった。よって、本研究会(本部会)は今年度一切の活動を休止した次第である。

なお、羽村市は、3月から5月の休校中、英語、数学、国語、理科、社会、音楽等の教科において、各校で工夫を凝らした学習補助動画を作成し、生徒にインターネット上で閲覧させるといった取組を実践した。

閲覧状況は、教科によって、内容が休校中課題に直結していたかどうか等の違いにより差異が見られたが、一つの試みとして成果もあったように思える。

### III. 成果と課題

コロナ禍の影響により、休校、分散登校、授業内容の制限、マスク着用による弊害(指導者が生徒の口元を観察することができない)など、学校教育の様々な課題が浮き彫りになった。

同時に、動画を作成しアップするという試みにより、例えば長期休業中や不登校生徒へのアプローチの仕方といった観点から、新たな英語指導の形が垣間見えたとも感じられた。

(羽村第一中学校主幹教諭 山中洋介 記)

## あきる野市

※新型コロナウイルス感染症対策のため、今年度、部会や研究事業等活動なし。

### I. 研究主題(昨年度)

「新学習指導要領の実施に向けて」

～生徒の英語理解力・表現力を向上させるための指導方法～

### II. 研究の経過

◇一斉部会→中止

◇一斉授業研究会

第1回 10月7日→中止

第2回 1月20日

◇授業力向上研修会

第1回 10月21日→中止

◇小中合同発表会

2月17日→中止

### III. 次年度に向けての取組

昨年度は、新学習指導要領について、部会で意見交換し、研究発表した。

今年度、部会を開くことができなかったが、「発表」「やり取り」「即興性」と細分化された表現活動を創り上げるために、各校が授業実践を継続していく。

また、都立入試で導入されるスピーキングテストに対する準備を進める。

(東中学校主幹教諭 和久利幸子 記)

# 西 東 京 市

## I. 研究主題

「コミュニケーション活動のさらなる充実～新学習指導要領の意向と小中一貫の開始に向けて～」

## II. 研究の経過

- ◇5月20日 令和2年度西東京市立  
中学校教育研究会→休校中のため中止
- ◇11月11日 研究授業と研究協議  
会 場：田無第一中学校  
授業者：栗原 恵子 教諭  
Matthew Fellows  
(ALTとのT.T形式)  
授業内容：NEW CROWN1  
Let's Talk 4  
「買い物しよう」  
講 師：元都立両国高校附属中学校  
杉本 薫 先生  
講 演：「コミュニケーション活動の  
さらなる充実～新学習指導要  
領への移行と小中一貫の開始  
に向けて・英語授業の「これ  
まで」と「これから」

## III. 今年度の成果と課題

今年度は昨年度のテーマを継承しつつ、新学習指導要領への移行を見据え、研修を行った。研究授業では、コミュニケーション活動のさらなる充実にむけ、コミュニケーション活動の単元を扱い、ALTとのT.T形式での授業を行った。

買い物の場面を取扱い、その即興でのやり取りや発表の場を設け、授業が展開された。また、協議会および講師による講演では、新学習指導要領における評価の方法について助言をいただいた。次年度以降の評価計画を立てるにあたり、Can-Doリストの作成のヒントをいただくことができた。次年度も評価の方法やスピーキングテストに対する準備などに向け研修を進めたい。

(保谷中学校主任教諭 石沢絹 記)

# 大 島 町

## I. 研究主題

「新学習指導要領実施に向けた指導法の研究」—小中学校のスムーズな連携—

## II. 研究の経過

- ◇4月15日 大島町教育研究会→中止
- ◇5月27日 大島町教育研究会
  - ①令和元年度活動報告
  - ②令和2年度組織作り  
研究主題・年間活動計画の検討
- ◇10月14日 教育研究会英語部会  
会 場：大島町立第一中学校
  - ①研究授業  
対 象：第1学年  
授業者：松原 陽子 先生  
講 師：上智大学短期大学教授  
狩野 晶子 先生
  - ②研究協議
  - ③情報交換
- ◇11月25日 教育研究会英語部会  
会 場：大島町立第一中学校
  - ①小学校授業ビデオ研究
  - ②情報交換
- ◇1月20日 教育研究会英語部会  
会 場：大島町立第二中学校
  - ①研究授業  
対 象：第3学年  
授業者：井上 悦子
  - ②研究協議
  - ③情報交換
  - ④本年度の反省と来年度の課題協議  
(第二中学校教諭 井上悦子 記)

# 八 丈 町

## I. 研究主題

「コミュニケーション能力を活用できる  
児童・生徒の育成」

～小中一貫教育を意識した

指導の工夫～

## II. 活動の経過

◇5月15日 活動計画決定

(電子メールの回覧により実施)

研究主題、活動計画、組織作り

◇7月6日 第1回部会

(Web会議により実施)

研究授業担当地区決め、物品購入検討

◇2学期 英検 IBAテスト実施

◇11月18日 第2回部会

### ①研究授業

会 場：三原小学校

対 象：第3学年

授業者：工藤 洋子 教諭

土居 由起子 主任教諭

Tyler Martin ALT

### ②協議

### ③情報交換

◇1月20日 第3回部会

### ①研究授業

会 場：三根小学校

対 象：小学校6年生

授業者：大平 要 教諭

### ②協議

### ③年度末反省・まとめ

### ④情報交換

(富士中学校主任教諭 小泉国広 記)

令和2年度  
中英研事業報告

- ・各部夏期ワークショップの確認
- ・地区幹事会の確認
- ・関ブロ山梨大会の中止について
- ・全英連東京大会の中止について  
指導助言 教育庁  
西貝 裕武 課長

1. 4月20日（月）役員会  
※オンライン  
①役員組織等の確認  
②年間事業計画の検討  
③中英研定期総会に向けて  
④役員会の日程について  
⑤関ブロ、全英連大会について 他
2. 5月8日から6月20日まで  
定期総会 ※資料を地区幹事宛に発送し、ファクシミリにて承認を図った。  
①令和元年度事業報告・決算報告  
②令和元年度会計監査報告  
③新役員の承認  
④2年度行動目標の承認  
⑤2年度事業計画・予算の承認
3. 5月14日（木）研究部会  
※オンライン  
・今後の方向性についての検討
4. 5月18日、7月20日  
9月30日、10月20日 出版部  
※オンライン  
・「中英研だより」編集会議
5. 7月16日（木）役員会  
於：都教職員研修センター  
・都中教研総会の報告
6. 7月30日、9月14日、  
10月5日 事業部  
※都教職員研修センター 他  
・英語学芸会の運営について
7. 8月7日、8月18日 調査部  
於：八王子市立第一中学校  
・コミュニケーション・テスト作成及び採点
8. 8月18日  
プロジェクトチーム部会
9. 9月1日、9月24日 役員会  
於：武蔵野市立第五中学校  
①今後の運営について  
②英語学芸会の運営について 他
10. 9月27日（月） 研究部会  
於：豊島区立千登世橋中学校  
・全英連大会、中英研発表について
11. 10月5日から12月25日まで  
第73回英語学芸大会  
※動画により実施
12. 10月5日（月） 役員会  
於：都教職員研修センター  
①各部の活動報告

- ②英語学芸大会について
- ③「中英研だより」「会報」の発行他

13. 10月30日（金）  
「都中英研だより」第74号発行
14. 11月19日から2月中旬まで  
出版部「会報」編集
15. 1月中旬から3月中旬まで 調査部  
※オンライン  
コミュニケーション・テスト作成
16. 1月下旬 事業部  
※オンライン  
第36回授業力向上研修会
17. 1月22日、2月12日 研究部  
於：都教職員研修センター 他  
授業研究
18. 1月14日（木）  
令和2年度東京都教職員研修センター  
教育課題研究発表会展示発表
19. 2月16日（火） 役員会  
於：都教職員研修センター
  - ①令和2年度の成果と課題
  - ②令和3年度中英研の運営 他
20. 3月中旬「中英研究会報」発行

（副会長 遠藤 哲也 記）

# 東京都中学校英語教育研究会会則

## 第1章 総 則

- 第1条 本会は東京都中学校英語教育研究会と称する。
- 第2条 本会の事務所は会長指定の経理部長在籍校の所在地に置く。
- 第3条 本会は東京都中学校の英語教育関係者を会員とする。

## 第2章 目的及び事業

- 第4条 本会は中学校英語教育に関する事項を研究し、会員の識見の向上に努めると共に、英語教育の振興を図ることを目的とする。
- 第5条 本会は前条の目的を達成するために、次の事業を行う。
1. 各種研修会の開催（研修会、発表会、講演会等）
  2. 調査活動（コミュニケーションテストの作成とその分析、調査活動等）
  3. 研究活動（英語教育に関わる基礎的かつ実践的な課題等）
  4. 各種英語教育団体との連絡
  5. 機関誌発行、本会の目的達成に必要な事業

## 第3章 役員及び幹事

- 第6条 本会には次の役員および幹事をおく。
1. 会長1名
  2. 副会長若干名
  3. 部長各部ごと1名
  4. 副部長各部ごと若干名
  5. 会計監査2～3名
  6. 幹事各区、市ごとに1名
- 第7条 役員を選出は次のとおりとする。
1. 会長・副会長は役員会の推薦により、総会の承認を得なければならない。
  2. 部長・副部長は役員会の推薦により、会長が委嘱する。
  3. 会計監査は役員会の推薦により、会長が委嘱する。
- 第8条 役員の仕事は次のとおりとする。
1. 会長は本会を代表し、会務を総括する。
  2. 副会長は会長を補佐し、会長に事故あるときはその職務を代行すると共に、各部を分担する。
  3. 部長は担当副会長と協議の上、部会を招集し、会務を執行する。
  4. 幹事は本部と各地区との連絡にあたる。
  5. 事務局は総務部が担当し、事務局長は総務部長があたる。
  6. 会計監査は会計の監査を行い、その結果を総会に報告する。

第9条 役員の任期は1年とする。ただし再任を妨げない。

第10条 本会に相談役、参与及び顧問をおくことができる。

1. 相談役はOB会長及び副会長より、参与は現職校長より役員会の推薦により会長が委嘱する。
2. 顧問は英語科出身の指導主事より会長が委嘱する。

## 第4章 会 議

第11条 会議は次のとおりとする。

### 1. 総 会

毎年1回会長が招集し、会務の報告、役員的人事、予算、決算等を審議し、決定する。ただし、必要がある場合は臨時に開くことができる。

### 2. 役員会

会長・副会長・部長をもって構成し、必要に応じて副部長・会計監査を加え、会長の諮問機関とする。

### 3. 幹事会

役員・幹事をもって構成し、学期1回以上例会を開き、会務を執行する。

### 4. 部 会

[総務部] 庶務・会計・渉外及び他部に属さない事項の処理

[事業部] 会の年間計画・英語学芸会・研修会、その他会長より委嘱された事業の立案・計画・推進

[調査部] コミュニケーションテスト及び英語教育に関する調査の実施

[研究部] 語彙指導などの研究活動とその普及のための広報活動、研究発表会および公開授業の開催

[出版部] 中英研だより・会報などの発行

[プロジェクト・チーム部] 英語教育に関わる今日のかつ実践的な課題についての研究の推進

## 第5章 会 計

第12条 本会の会費は東京都中学校教育研究会よりの交付金をもってあてる。

第13条 本会の経費は会費およびその他の収入による。

第14条 本会の予算・決算は総会の承認を得なければならない。

第15条 本会の会計年度は毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

## 第6章 付 則

第16条 本会則は昭和60年4月1日より実施する。

第17条 本会則の変更は総会の承認を得なければならない。

第18条 細則は幹事会で定めることができる。

※改定 第5条2、3及び第11条4は平成17年5月19日より実施する。

※第2条及び第16条は平成30年5月10日より実施する。

## 令和2年度 東京都中学校英語教育研究会役員名簿

役名	氏名	所属校
会長	刀根 武史	武蔵野市立第五中学校
副会長	遠藤 哲也	葛飾区立水元中学校
〃	佐藤 ひろみ	八王子市立松が谷中学校
〃	平岡 栄一	葛飾区立亀有中学校
〃	難波 浩明	足立区立第十四中学校
〃	田谷 至克	大田区立貝塚中学校
〃	柳 歆子	大田区立馬込中学校
〃	今本 由美子	立川市立立川第三中学校
〃	佐藤 順一	墨田区立吾嬬立花中学校
〃	大森 博	八王子市立第一中学校
〃	横山 達也	八王子市立第六中学校
担当副会長 兼総務部長	遠藤 哲也	葛飾区立水元中学校
経理部長	佐藤 ひろみ	八王子市立松が谷中学校
総務副部長	田中 誠一郎	三鷹市立第六中学校
〃	星 正行	足立区立入谷南中学校
部員	佐々木 昭央	目黒区立目黒第九中学校
〃	新野 美紀	練馬区立大泉桜学園中学校
〃	赤田 洋一	江東区立大島中学校
〃	米岡 利昌	葛飾区立水元中学校
〃	小林 和代	葛飾区立水元中学校
〃	内藤 美城子	台東区立桜橋中学校
〃	赤尾 章子	葛飾区立中川中学校
〃	池田 美咲	葛飾区立水元中学校
担当副会長	大森 博	八王子市立第一中学校
調査部長	荒川 高広	千代田区立九段中等教育学校
副部長	市川 拓治	福生市立福生第二中学校
〃	高瀬 ひとみ	品川区立鈴ヶ森中学校
〃	加藤 真由子	調布市立第五中学校
部員	相澤 雄介	練馬区立光が丘第三中学校
〃	安部 智秀	練馬区立大泉中学校
〃	飯島 美樹	江東区立深川第二中学校
〃	大木田 陽子	文京区立茗台中学校
〃	大澤 陽子	世田谷区立駒沢中学校
〃	大竹 希依子	中野区立第四中学校
〃	上水 謙治	小平市立小平第五中学校

役名	氏名	所属校
部員	梶野真弓	中野区立第二中学校
"	木村弘恵	品川区立浜川中学校
"	斎藤基	日野市立日野第三中学校
"	白井靖子	江東区立深川第三中学校
"	柴野泰行	江東区立第二砂町中学校
"	島崎さやか	八王子市立第一中学校
"	杉本康子	小平市立小平第二中学校
"	鈴木美帆	杉並区立向陽中学校
"	田所毅	小平市立小平第五中学校
"	丹生幸宣	小平市立上水中学校
"	坪内英津子	三鷹市立第三中学校
"	永井剛	日野市立七生中学校
"	幡野洋子	日野市立日野第四中学校
"	樋口はる菜	国立市立国立第一中学校
"	星雄介	西東京市立田無第二中学校
"	前田秋輔	東京都立桜修館中等教育学校
"	松村祐輔	江戸川区立松江第五中学校
"	丸山啓子	大田区立矢口中学校
"	宮崎太樹	八王子市立ひよどり山中学校
"	山下郁子	日野市立大坂上中学校
担当副会長	平岡栄一	葛飾区立亀有中学校
事業部長	横山達也	八王子市立第六中学校
副部長	稲葉高広	町田市立鶴川中学校
"	小山千景	葛飾区立双葉中学校
"	相沢隆二	目黒区立目黒中央中学校
"	大屋剛	江東区立南砂中学校
"	前川卓哉	国分寺市立第五中学校
部員	宮野和子	府中市立浅間中学校
"	大竹希依子	中野区立第四中学校
"	亀田洋斉	千代田区立九段中等教育学校
"	川越智子	北区立飛鳥中学校
"	石井誠	渋谷区立松濤中学校
"	才丸光	渋谷区立上原中学校
"	小川史哲	八王子市立別所中学校
"	宮内瞭	八王子市立陵南中学校

役名	氏名	所属校
部員	山内正治	八王子市立川口中学校
"	黄俐嘉	世田谷区立緑丘中学校
"	川澄陽子	大田区立大森第六中学校
"	河野真由子	東京都立武蔵高等学校
"	遠藤貴裕	町田市立鶴川中学校
担当副会長	田谷至克	大田区立貝塚中学校
研究部長	伊地知義信	豊島区立千登世橋中学校
副部長	原田博子	文京区立第十中学校
"	溪内明	文京区立本郷台中学校
"	前田宏美	港区立港南中学校
部員	岡崎伸一	目黒区立東山中学校
"	中川智子	大田区立志茂田中学校
"	江濱悦子	大田区立大森第四中学校
"	壽原友理子	東京都立两国高等学校附属中学校
"	水嶋諒	江東区立第四砂町中学校
"	高杉達也	東京都立小石川高等学校
"	太田裕也	品川区立鈴ヶ森中学校
"	古川悟	世田谷区立太子堂中学校
"	堀田奈梨子	大田区立馬込東中学校
"	三上健二郎	大田区立出雲中学校
"	森沢俊彦	町田市立真行寺中学校
"	島田拓	足立区立入谷南中学校
"	柏麻里恵	葛飾区立水元中学校
"	大島良一	江戸川区立篠崎第二中学校
"	町田恵理子	東京都立立川国際中等教育学校
"	多田翔	葛飾区立桜道中学校
"	福島恵子	豊島区立西巢鴨中学校
"	一ノ瀬麻子	港区立六本木中学校
"	能美真弓	荒川区立第三中学校
"	橋本晋作	渋谷区立松濤中学校
"	岡大佑	足立区立江南中学校
"	長谷川眞司	江東区立砂町中学校
"	川邊真梨子	武蔵野市立第三中学校
担当副会長 兼出版部長	今本由美子	立川市立立川第三中学校
副部長	溝口千里	練馬区立旭丘中学校

役名	氏名	所属校
副部長	小柳守生	足立区立西新井中学校
〃	當麻忠幸	西東京市立ひばりが丘中学校
部員	兼子容子	葛飾区立四ツ木中学校
〃	相澤史彦	練馬区立八坂中学校
〃	中井正弘	小平市立小平第一中学校
〃	福田貴音	豊島区立西池袋中学校
〃	鈴木咲子	清瀬市立清瀬第二中学校
〃	柳 絵未	千代田区立九段中等教育学校
〃	岩田 歩	調布市立第五中学校
〃	辻 賢哲	青ヶ島村立青ヶ島中学校
〃	深山朋子	練馬区立北町中学校
〃	祖母井千秋	江東区立大島西中学校
〃	浅田紗織	青梅市立西中学校
〃	和田圭史	羽村市立羽村第三中学校
担当副会長	佐藤順一	墨田区立吾嬬立花中学校
P T 部長	小林博子	豊島区立明豊中学校
部員	原田博子	文京区立第十中学校
〃	上尾栄美子	足立区立第五中学校
〃	角田幸彦	足立区立入谷中学校
〃	堀 恭子	西東京市立田無第三中学校
〃	渡邊英哲	稲城市立稲城第四中学校
〃	飯沼美千代	練馬区立大泉中学校
〃	田中佳奈	連雀学園三鷹市立第一中学校
〃	川戸萌美	連雀学園三鷹市立第一中学校
〃	本田耕大	墨田区立文花中学校
〃	佐藤善明	墨田区立両国中学校
〃	西田 桐	墨田区立両国中学校
〃	伊勢 涼	江東区立深川第八中学校
〃	渡邊良亮	世田谷区立喜多見中学校
〃	村山幸広	江戸川区立二之江中学校
小中連携	吉村達之	三鷹の森学園三鷹市立高山小学校
〃	柳 歆子	大田区立馬込中学校
会計監査	竹内康裕	八王子市立第五中学校
〃	小島幸子	八王子市立第五中学校
〃	渡邊和彦	八王子市立打越中学校

## あ と が き

ここに、令和2年度「中英研会報」第79号をお届けいたします。

本誌の発行に際しましては、文部科学省初等中等教育局外国語教育推進室教科調査官山田 誠志 先生、国際教養大学専門職大学院教授 内田 浩樹 先生をはじめ、多くのご執筆者の皆様にご協力いただきましたことに、心から御礼申し上げます。

また、各地区幹事の先生方におかれましては、「地区活動状況」ページの作成にあたり、ご多用の中、原稿提出にご協力いただきありがとうございました。このような状況の中で、原稿をお願いすることには葛藤もございました。しかし、今年度の状況を何かの形で記録に残しておく必要があると考えたこと、また、様々な制限、制約の中で進めてこられた臨時休業期間の取組、学校再開後の授業実践や研修の様子について情報共有を図ることが、今後の各地区の活動の参考になると考え、ご協力をお願いすることといたしました。

今年度は、多くの研修会や研究大会が中止となりました。その中で、この会報が、都内各中学校の英語科教員の情報共有の場となり、英語科教員相互の連携、都の中学校英語教育の一層の充実、発展のお役に立てればと願っております。

最後になりましたが、本誌の発行にあたり、ご支援を賜りました多くの先生方に感謝いたしますとともに、会員の皆様の一層のご活躍をお祈りいたします。

(都中英研出版部長 今本 由美子)

## 都中英研会報 第79号

令和3年3月1日印刷  
令和3年3月1日発行

発行者 東京都中学校英語教育研究会

代表者 刀根 武史

発行所 東京都中学校英語教育研究会  
東京都武蔵野市立第五中学校  
東京都武蔵野市関前2-10-20  
TEL (0422) 52-0421

印刷所 (株) オフィス・サンライズ  
東京都大田区鵜の木2-6-5  
TEL (03) 5741-3146